

(原表紙)

薩藩政要録三

(共六冊)

(原寸縦二八釐、横二〇・五釐)

〔朱〕
十九

御直并御前元服且又元服之御礼御内証元服被仰付候

人数家筋連名次第之事

一 御直元服之儀ハ、御身近キ御一門、其外歴ミ之家筋、別而御奉公功有
 之子供為被仰付事候処、近年、御一家段々多罷成、末々ニ成候而も例
 之様成候而御家末々之別され迄も、御直元服も有之重キ儀候処、至頃
 日輕々敷罷成、古法之御格式ニ相替候、依之此節元服之次第被相究候
 一 只今迄、御名代元服と相唱候書附等ニも致来候者、御前元服と被相改
 候、御直元服被仰付等を此節之通玄蕃殿御名代ニ而被仰付候元服を
 御名代元服と相唱書附等も可致候

一 島津権左衛門嫡子島津孫四郎・相良源太夫嫡子相良新助^正先頃被仰付
 候元服之格唱等御内証元服と被仰付候、元服之御礼次ニ可書載候、御
 家老加冠ニ而元服席之儀ハ其節之、御意次第可被仰付候、不及進上
 物、御内々ニ而御目見、元服之人支度半上下

右之通元文二年己七月被仰出候事

一 御内証元服之儀半上下被仰付来候得共、向後長袴ニ被仰付候旨、安永
 八年亥八月被仰渡置候事

二男迄 御直元服

島津山城殿 島津伯耆殿
 島津内匠殿 島津但馬
 島津大炊殿 島津和泉
 嫡子 御直元服二男 御前元服

島津大蔵 島津縫殿
 島津図書 島津助之丞
 島津丹波 新納浪江
 島津主殿 島津石見
 島津左 島津
 嫡子 御直元服

川上久馬
 樺山権左衛門
 桂 宇右衛門
 島津頼母
 島津求馬
 喜入多門
 町田監物
 島津新八郎
 北郷内記
 島津要人
 島津矢柄
 吉利主馬
 大野鶴袈裟
 島津守右衛門
 伊集院伊膳
 種子島伊勢
 島津仁十郎
 穎娃稻千代
 小松式部
 入来院平次
 比志島相馬
 肝付典膳
 菱刈奎之介
 諏訪甚六
 御前元服
 島津与十郎
 川田信濃
 島津彦太夫
 島津右平太
 郷原彦左衛門

島山式部
 鎌田藏人
 伊勢伊織
 市田長門
 義岡藏人
 山岡要人
 島津典礼
 末川將監
 島津登
 川上主鈴
 新納内藏
 樺山権十郎
 新納縫殿
 町田勘解由
 伊集院織部
 鎌田源左衛門
 平田平次郎
 仁礼小吉
 新納十郎
 比志島 新五郎
 諏訪奎左衛門
 土持万十郎
 渋谷次郎左衛門
 本田二郎太郎
 三崎平太
 谷川休次郎
 村橋昇
 伊勢新五郎

北郷権五郎
元服之御礼
肝付八郎左衛門

桂 権七郎
川上新太夫

伊集院藏主
本田六左衛門

北条 織部
高崎崎納右衛門

御内証元服

川上孫左衛門
相良平八

島津 仲
小笠原 轍

高橋 要人
河野 外記

二階堂伊豆
赤松 造酒

二階堂 源太夫
宮之原主膳

名越 右膳
山田 司

右元服之儀に付而ハ以前ハ其家柄、又ハ依申分二男迄モ 御直又ハ
御前元服段ニ為被仰付事候得共、重キ儀候処、御家末之別され迄被

仰付候得ハ輕ニ敷罷成候、依之右之通此節御格式被相究候間、向後右

家筋迄を御格式之通被仰付、此外何様之申分雖有之候御取揚無之候間、

右御格式之通可相心得旨正徳元卯九月被 仰出候事

右之通被極置候、以後三崎文太夫・北条十左衛門・島津権左衛門・二

階堂舍人・名越左源太・相良源太夫・小笠原郷左衛門・河野安之右衛

門、右八人嫡子右之通被仰付、家筋引次被仰付候由、段ニ被仰渡置

候事

右之通被仰渡置候、以後川上頼母・二階堂主計・赤松造酒・宮之原主

膳・谷川次郎左衛門・山田静馬、前条同断被仰渡置候事

(宋)

「二十」 家格被相定候人并家筋連名次第之事

附家ニ付年頭八朔御太刀進上人敷之事

島津山城殿
川上孫左衛門

島津内匠殿

島津大炊殿

島津伯耆殿

島津但馬

島津和泉

川上久馬

島津凶書

島津丹波

島津主殿

島津 奎

島津縫殿

新納浪江

樺山権左衛門

島津石見

桂宇右衛門

喜入多門

町田監物

北郷内記

島津要人

吉利主馬

大野鶴袞

種子島伊勢

島津仁十郎

顯娃稻千代

小松式部

入来院平次

比志島相馬

肝付典膳
麥刈奎之介
諷訪甚六

川上 亘

島津右平太

島津 登

郷原彦左衛門

川上主鈴

新納内藏

樺山権十郎

北郷七郎左衛門

北郷権五郎

桂 権七郎

島津 仲

伊集院藏主

新納縫殿

町田勘解由

伊集院織部

新納主税

伊集院隼衛

山田新介

鎌田源左衛門

平田平次郎

高橋 要人

仁礼 小吉

二階堂伊豆

二階堂 源太夫

名越 右膳

小林中太兵衛

北条 織部

本田二郎太郎
相良 平八
平田孫太郎跡

一所持格

川田信濃
市田長門
島津大藏
島津助之丞
島津頼母
島津求馬
島津新八郎
島津与十郎
島津矢柄
島津守右衛門
伊集院伊膳
島山式部
鎌田藏人
伊勢伊織
義岡藏人
山岡要人
島津靱負
島津典礼
末川將監
島津藏人
島津彦太夫

寄合

右之通一所持・一所持格・寄合・寄合並家格、正徳二年辰九月被相定候旨、被仰出置候処、寄合・寄合並之内、前後之次第相替、且又被召入候人も有之、享保二年酉六月被相改置候処、其以後段、被召入候人も有之、当分右之次第候事

一所持・一所持格并寄合・寄合並家筋連名之次第

島津但馬
島津和泉

川上孫左衛門
川上亘

寄合並

堀四郎左衛門
小笠原轍
鎌田太郎右衛門
鎌田休之進
市来次郎左衛門
河野外記
赤松造酒
波谷喜三左衛門
宮之原主膳
関山軍兵衛
山田司
岩下長左衛門
上野善兵衛
三崎平太
倉山作太夫
谷川休次郎
村橋昇
北郷転
伊勢新五郎
西彦太郎

一所持格

川上久馬
島津大藏
島津凶書
島津丹波
島津主殿
島津縫殿
島津助之丞
島津權七郎

右三家同格

右両家同格

一所持格

新納浪江
樺山權左衛門
島津石見
桂宇右衛門
島津頼母
島津求馬
喜入多門
町田監物
島津新八郎
島津与十郎

右両家同格

一所持格

北郷内記
島津要人
島津矢柄
吉利主馬
大野鶴袈裟
右両家同格
島津守右衛門
伊集院伊膳
種子島伊勢

右同

島津但馬
島津和泉

一所持格

島津右平太
島津登
郷原彦左衛門
川上主鈴
新納内藏
樺山權十郎
北郷七郎左衛門
北郷權五郎
桂權七郎
島津仲

伊集院藏主
新納縫殿
町田勘解由
伊集院織部
新納主税
伊集院隼衛
山田新介
鎌田源左衛門
平田平次郎
高橋要人
仁礼小吉
二階堂伊豆
二階堂源太夫
名越右膳
小林中太兵衛
北条織部
本田二郎太郎
相良平八
平田孫太郎跡
堀四郎左衛門

島津 仁十郎
 穎娃 稻千代
 小松 式部
 入来院 平次
 比志島 相馬
 肝付 典膳
 菱刈 李之介
 諏訪 甚六
 川田 信濃
 畠山 式部
 鎌田 藏人
 右同
 伊勢 伊織
 市田 長門
 義岡 藏人
 山岡 要人
 島津 勲負
 島津 典礼
 末川 將監
 島津 彦太夫
 家二付年頭御太刀進上人敷
 島津 山城殿
 島津 内匠殿
 島津 大炊殿
 島津 伯耆殿
 島津 但馬
 島津 和泉
 川上 久馬
 島津 大藏
 島津 図書
 島津 丹波

小笠原 輓
 鎌田 太郎右衛門
 鎌田 休之進
 市来次郎左衛門
 河野 外記
 赤松 造酒
 淡谷喜三左衛門
 宮之原 主膳
 関山 軍兵衛
 山田 司
 岩下 長左衛門
 上野 善兵衛
 寄合並
 三崎 平太
 倉山 作太夫
 谷川 休次郎
 村橋 昇
 北郷 軒
 伊勢 新五郎
 西 彦太郎
 吉利 主馬
 大野 鶴袈裟
 島津 守右衛門
 伊集院 伊膳
 種子島 伊勢
 島津 仁十郎
 穎娃 稻千代
 小松 式部
 入来院 平次
 比志島 相馬

島津 主殿
 島津 縫殿
 島津 助之丞
 島津 浪江
 新納 權左衛門
 樺山 石見
 島津 宇右衛門
 柱 頼母
 島津 頼母
 島津 求馬
 喜入 多門
 町田 監物
 島津 新八郎
 島津 与十郎
 北郷 内記
 島津 要人
 島津 矢柄
 島津 山城殿
 島津 内匠殿
 島津 大炊殿
 島津 伯耆殿
 島津 但馬
 島津 和泉
 川上 久馬
 島津 大藏
 島津 図書
 島津 丹波
 島津 主殿
 島津 奎

家二付八朔御太刀進上人敷

肝付 典膳
 菱刈 李之介
 諏訪 甚六
 川田 信濃
 畠山 式部
 鎌田 藏人
 伊勢 伊織
 市田 長門
 義岡 藏人
 川上 主鈴
 新納 内藏
 伊集院 織部
 小番 大島 休左衛門
 右同 志岐 藤左衛門
 右同 田尻 中之丞
 右同 中西十郎 左衛門
 島津 与十郎
 北郷 内記
 島津 要人
 島津 矢柄
 吉利 主馬
 大野 鶴袈裟
 島津 守右衛門
 伊集院 伊膳
 種子島 伊勢
 島津 仁十郎
 穎娃 稻千代
 小松 式部

島津縫殿
島津助之丞
新納浪江
樺山權左衛門
島津石見
桂宇右衛門
島津頼母
島津求馬
喜入多門
町田監物
島津新八郎

入来院平次
比志島相馬
肝付典膳
菱刈李之介
諏訪甚六
川田信濃
畠山式部
鎌田藏人
伊勢伊識
市田長門
川上主鈴

〔廿一〕^{〔朱〕} 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事

一 島津周防殿事ハ 吉貴公御二男二而元文二年己三月十八日越前島津家跡相統被仰付、同三年八月廿七日隅州帖佐郷之内、薩州吉田郷之内重富一所之地拜領被仰付候
一 島津因幡殿事ハ 吉貴公御三男二而延享元年子五月廿五日和泉家名跡相統被仰付、同年十二月廿一日薩州指宿郷之内、額娃郷之内、今和泉一所之地拜領被仰付候

〔廿二〕^{〔朱〕} 島津之御称号被下置候面。二男以下名字拜領被仰付候事

勝山 島津山城殿
村橋 島津内匠殿

末川 島津大炊殿
和泉 島津伯耆殿
赤山 島津但馬
村森 島津和泉
三崎 島津大藏
山林 島津大藏
倉山 島津丹波
九良賀野 島津主殿
佐多 正徳元九月十五日島津之称号拜領二男よりは佐多為名乗可申旨被仰付候
谷川 島津縫殿
三木原 島津助之丞
北郷 此節拜領二而無之候得共嫡子之外右名字為名乗可申旨被仰渡候
平屋 島津頼母
柳屋 島津求馬
基太村 此節拜領二而無之候得共嫡子之外右名字為名乗可申旨被仰渡候
黒岡 島津与十郎
細滝 島津要人
岩越 島津矢柄
川久保 島津守右衛門
土岐 島津仁十郎
谷崎 島津典礼
板鼻 島津彦太夫
大熊 島津右平太
掛橋 島津登
栗川 右之通正徳元卯十一月被仰出候事

島津大炊殿
島津伯耆殿
島津但馬
島津和泉
島津大藏
島津大藏
島津丹波
島津主殿
島津縫殿
島津助之丞
島津石見
島津頼母
島津求馬
島津新八郎
島津与十郎
島津要人
島津矢柄
島津守右衛門
島津仁十郎
島津典礼
島津彦太夫
島津右平太
島津登
島津仲
島津鞆負

島津藏人

右商家代ニ嫡子迄ハ島津之御称号被成御免、二男以下家号之儀ハ未何分不被仰渡候

〔廿三〕(朱) 御家之字名乘来候面ニ江二男以下名乘之字拜領被仰

付候事

附実名遠慮之字被仰渡候事

久 島津山城殿

紀

右之二字至以来二男以下依人実名之字ニ可被用旨、元文五年申三月被仰渡置候

朗 島津内匠殿

右二男迄ハ永代久之字御免、三男より拜領之字被用旨ニ享保十九年寅六月被仰渡置候

将 島津大炊殿

但備前貴殿事、元文二年巳七月從 総州様御諱之貴之御一字拜領ニ付、嫡ニ右貴之字永代被相用候様被仰渡候事

右二男迄ハ永代久之字御免、三男より拜領之字被用旨ニ正徳三年巳三月被仰渡置候

久 島津伯耆殿

郷

右二男以下寄合ニ別立被仰付候人、久之字被用、寄合ニ而無之、又ハ不被別立家内ニ罷居候人、郷之字被相用候様寛延四年末十月被仰渡置候

歳 島津但馬

英 島津和泉

右二男迄ハ永代久之字御免被成候、三男よりハ此節被下候字を用可被申候

親 川上久馬

明 島津大藏

尚 島津因書

季 島津丹波

輝 島津主殿

直 島津縫殿

清 島津助之丞

守 島津浪江

時 新納

資 樺山権左衛門

資 島津石見

勝 島津頼母

記 島津頼母

房 島津求馬

譽 喜入多門

実 町田監物

用 島津矢柄

用 吉利主馬

用 大野鶴袈裟

用 義岡藏人

英 山岡要人

兼 島津仲

兵 伊集院藏主

右嫡子迄ハ代久之字御免被成候二男よりハ此節被下候字を用可被申候

島津新八郎

島津与十郎

島津要人

島津守右衛門

島津要人

島津頼負

島津典礼

島津彦大夫

川上孫左衛門

川上登

川土主 鈴 新納内藏 樺山 權十郎
 北郷七郎左衛門 北郷 權五郎 桂 權七郎
 新納 縫殿 町田 勘解由 伊集院 織部
 新納 主税 伊集院 隼衛 三崎 平太
 倉山 作太夫 谷川 休次郎 村橋 昇
 北郷 軒

右人数ハ夫々庶流ニ而候得共、寄合并以上之格式ニ候故、嫡子計ハ代々久之字被成御免候、二男以下ハ嫡家ニ被下候字を用可申候、輕負藏人事、二男以下之儀ハ未何分不被仰渡候

寄合并以上之者共嫡子迄ハ代々久之字被成御免候、右格之者寄合并以下之格ニ被仰付儀有之節ハ久之字用申間敷候

島津 仁十郎

右仁十郎家之儀御一族ニ而無之候得共、御名字御家之字御免被成置候二男よりハ御名字并御家之字名乘申間敷候

穎娃 稻千代

右嫡子代々御家之字御免被成置候、二男よりハ御家之字名乘申間敷候

良 龜山 守右衛門

真 山田 孫五郎

安 碓山 仲左衛門

有 大島 休左衛門

經 迫水 善左衛門

右者共ハ 御直別之家筋ニ候間、嫡子迄ハ代々久之字御免被成候、二男よりハ此節被下候字を用可申候

伊作家庶流若松氏嫡流

長 若松 若次郎

薩州家庶流大田氏嫡流

用 大田 吉兵衛

薩州家庶流寺山氏嫡流

用 寺山 源右衛門

越前島津家庶流出所不相知

行 宇宿 彦太郎

伊作家庶流西氏嫡流加世田郷士

長 西 彦四郎

薩州家庶流西川氏嫡流鶴田郷士

用 西川 八郎太

阿蘇谷氏嫡流羽月郷士

時 阿蘇 宇三太

和泉氏嫡流断絶庶流島津大炊殿家来

氏 和泉 万右衛門

伊作家庶流恒吉氏嫡流島津内匠殿家来

長 恒吉 直次

越前家庶流知覽氏嫡流島津石見家来

行 知覽 孫八郎

右名乗之字拜領被仰付候間、則名乗改可申候

長 石見 半藏

右伊作名字名乘来候得共、伊作家之儀ハ 貴久公より御家被遊御兼帶御家筋之儀候間、伊作名字名乘儀無用可仕候、依之右石見名字拜領被仰付候、名乗之字ハ長之字用可申候

師久公御嫡子伊久之二男家島津石見家来

氏 相馬 惣持院

貴久公御六男家島津石見家来

氏 石坂 九右衛門

右者共 御家御直別之家筋ニ候故、其者嫡流之嫡子迄ハ家号之儀被遊御免候、勿論他家ニ致奉公候節ハ右之家号名乘申間敷候、且又名乗之字拜領被仰付候間、当家督之者より名乗改可申候

川上 嫡家 川上 久馬 佐多嫡家 島津 奎

新納 嫡家 新納 浪江 樺山嫡家 樺山 權左衛門

北郷 嫡家 島津 石見 町田嫡家 町田 監物

伊集院嫡家 伊集院 藏主 山田嫡家 山田 孫五郎

右家号之者、当時家中に罷居候者、又ハ組ニ不被入置者ハ依其家ニ御

直別之家号相避、別家家号ニ被相改事候間、右躰之者名字可改旨申出候ハ、於嫡家逐吟味、可改名字可申出旨、右嫡家之面ニ申渡

一 福昌寺^五 被附置候町田名字之者ハ前ニより諷有之、為被附置事候間、

一 嫡家之者ハ同嫡家迄ハ今迄之通、町田之家号名乘可申候、二男ニ而も

一 組ニ被召入者ハ町田名字被遊御免候、組ニ不被召入二男以下ハ別名字

名乘可申候

一 足懸并諸座附、又ハ諸士之家来、又ハ寺門前・町・浦・在郷之内 御

一 家御氏族之端と申伝候由ニ而 御直別等之家号、又ハ御家之字名乘来

一 候者有之由候、向後左ニ相記候家号、又ハ 御家之字名乘申間敷候

川 上 佐 多 新 納

一 輝 山 北 郷 桂

一 喜 入 町 田 伊 集 院

一 龜 山 山 田 碓 山

一 大 島 義 岡 迫 水

一 阿 蘇 谷 相 馬 石 坂

一 御直別、又ハ伊集院・町田家杯之家中ニ慥ニ同名筋之者、家来罷成、

一 今迄致隨身来主人之名字名乘来候者ハ其家中ニ而其家筋之嫡家之嫡子

一 迄ハ主人之家号被遊御免候、勿論其家を罷出、他家ニ致奉公候節ハ右

一 之家号名乘申間敷候

一 諸士家来之内、無紛其主人家ニ御附人筋之者、又ハ其家ニ罷在、前ニ

一 御奉公之筋を以、為抽働無紛者ハ今迄名乘来候 御直別又ハ伊集院・

一 町田等之家号ニ而も其者嫡流之嫡子迄ハ被遊御免候、勿論他家ニ致奉

一 公候節ハ是又右之家号名乘申間敷候

一 一家之字・頼之字・朝之字又忠之字、於御家中一切用申間敷候

一 一 当 公方様御名乘之字、於御家中名乘之字ニ一切用申間敷候

一 一 従 家久公、至 綱貴公、御名乘之字、当 御代ニハ於御家中名乘之

一 一 字ニ一切用申間敷候

一 一 忠休公御家督之節ハ 綱久公より以来之 御名乘之字、用申間敷候

一 一 右之通相心得、御代替之節、可致沙汰旨被仰出候

一 一 只今迄ハ名乘之字、二字共ニ同字ニ而候得共、一字ハ別字を用来候様

仕候得ハ名之避も候間、名乘之同字有之儀ハ不苦候、乍然兼而被仰出

一 置候名之遠慮仕候格式之人之名乘と同字ハ遠慮可仕候

一 右条ニ之儀、正徳三年巳三月より同年至八月被相定之事

一 吉・宗・家・重・治

一 右当 公方様 大納言様 竹千代様御名乘之字ニ而候故、右文字唱

一 迄も遠慮被仰付候事

一 綱・貴・吉・休・頭・繼・豊・兼又信之文字唱迄も遠慮、光・平・延

一 之三文字遠慮唱不苦候事

一 右之通遠慮可仕旨段ニ被仰渡候事

一 重・家・治・竹・豊・繼・洪・忠・基・蒙

一 右文字実名致遠慮、同唱之文字迄も可致遠慮候

一 但竹之字ハ先年被仰渡置候通、名ニ付候儀も可致遠慮候、且又基之

一 字名乘ニ用候儀無用可仕候、同唱之文字ハ心次第可仕旨被仰渡

一 候

一 貴・吉・信・宗・年

一 右文字実名可致遠慮候、同唱之文字ハ遠慮不及候

一 朝・頼・久

一 右文字先年より被仰渡候通可相心得候

一 右三行 御実名之文字以前より段ニ遠慮被仰渡置候得共、右之通被相

一 定、右外之文字ハ不及遠慮旨、宝曆五年亥十一月被仰渡候

一 齊

一 右文字致遠慮同唱之文字迄も可致遠慮旨、天明七年未正月仰被渡候

一 豊・宣

一 右文字致遠慮同唱之文字迄も可致遠慮旨、天明七年未正月被仰渡候

一 慶・家・峯・元・文・久・保・要・達・忠・興・邦・英・弥・種・操

一 随・桃・啓・閑・治・郁・順・祝・孝・苗

一 右文字同唱迄も可致遠慮旨、被仰渡候

一 淨・峯・真・舍

一 右式字ツ、統候名并実名同唱迄遠慮被仰渡候

一 右式行遠慮之儀文化十二亥年迄段ニ被仰渡候事

一 定・智・盛・乙・并・立・壯・諸・和・溶・銀・豊・左・嘉・亮・貢
・末・勝・春・昵・淑・聰・兵・彬・恒・千・松・丈・幸
右文字同唱迄も可致遠慮旨、被仰渡候

一 喜・代

右統候名并外之文字ニ而もきよと唱候名ハ末ニ迄も遠慮可仕旨被仰渡候

右式行遠慮之儀文政九戌年迄段ニ被仰渡候事

〔廿四〕

御一門并独礼之面、御城代御家老を始諸士以下之者

共迄妻手札帳面等ニ書様之次第被相究候事

御一門并独礼之面、御城代御家老之妻ハ札改方帳面ニ何某奥と可書記候

但独礼格之人ニ而無之共、妻独礼格之人ニ而候ハ、何某奥と可書記候
右人数之外一所持・一所持格・寄合・寄合并之面ニ妻ハ何某内と可書記候、手札ニも同前可書記候

諸士并以下之者共、妻此以前ハ女房と書記候得共、一統ニ妻と可書記候
右之通正徳三年巳九月被相定候事

〔廿五〕

御分國暨横并廻町間之事

但諸島除之

一 四拾壹里 亥子之間

一 内拾八里ハ海路 巳午之間

一 四拾四里 丑寅之間
未申之間

出水之内米之津より
出多御崎迄

倉岡より
坊津迄

内拾里ハ海路

一 百三拾里式拾六町拾六間三尺

一 百拾五里拾壹町四拾間四尺

一 九拾五里七町拾間半

一 御分國惣廻式百式拾六里四町六尺

内五拾三里式拾九町六間式尺

百七拾式里拾四町四間四尺

日州之内 諸原郡之廻

薩州之廻

隅州之廻

灘路之廻

陸路之廻

〔廿六〕

他領境目番所辺路番之事

出水之内 野間之原

野尻之内 紙屋

都城之内 寺柱

辺路番

志布志之内 川原田

志布志之内 まにハ

志布志之内 うしろ谷

都城之内 大峯河内

都城之内 中野

都城之内 諏訪口

都城之内 磯木

都城之内 高野

大口之内 小川内

高岡之内 去川

志布志之内 八郎ヶ野

志布志之内 たとこ

志布志之内 新地

都城之内 石原

都城之内 杉木水流

都城之内 野首

都城之内 巢野

都城之内 秋丸

加久藤之内 求麻口

都城之内 梶山

志布志之内 夏井

志布志之内 大河内

志布志之内 ひしゆかの

都城之内 細目

都城之内 正応寺口

都城之内 前村

都城之内 福留

都城之内 牧野

都城之内 飯屋

大崎之内
一 益丸村

右七ヶ所ニ先年異國船遠見番所被建置、其以後御引取相成居候処
寛政十年年又ニ先年之遺被相建候

市来之内
一 弁才天嶽
一 水引之内
一 小唐
一 高城郡高城之内
一 十五社山

右三ヶ所遠見番所・火立番所迄一ヶ所ニ而相勤候様被仰付置候

出水之内
一 脇本
一 阿久根之内
一 倉津所番
一 水引之内
一 京治

加世田之内
一 片浦
一 坊津
一 山川

志布志
一 右津口番所之儀、寛政十年年遠見番兼帯被仰付置候

〔朱〕 火立番之事

串木野之内
一 羽島崎
一 串木野之内
一 唐船ヶ尾
一 高江之内
一 遠見ヶ尾

伊集院之内
一 飯牟札嶽
一 鹿兒島之内
一 横井
一 鹿兒島之内
一 草牟田

右六ヶ所正徳二辰二月より番人惣様御引せ、番所并火立道具被差置候

〔朱〕 御武具之事

一 御鎧八領
内

一 領 忠久公御鎧
一 領 同 御写
右 同 御讓物

一 領 綱久公御鎧

但市来湯田村稻荷社ニ御奉納之処、御兵具方格護被御付候

一 領 但穎娃開聞宮ニ惟新様より御寄進ニ而候処右同断

一 領 但惟新様御召御鎧ニ而御側ニ被召置候処右同断

一 領 但霧島山御宮ニ義弘公より御寄進之処同断

一 領 但竜伯様御鎧ニ而御側ニ被召置候処右同断

一 綱久公御着籠籠手一具

一 御巡見具足九領
但御納戸より御兵具所ニ預り

一 綱貴公御腹卷一領

一 華御着籠二領
但御頭中有 御讓物

一 御旗拾五流
内 一 流 頼朝公御旗、八幡大菩薩之文字文寛上人筆

一 流 忠久公時雨之御旗
一 流 貴久公時雨之御旗
一 流 白御旗藤原朝臣貴久天文十五年丙午五月吉日と有之

一 流 義久公白御旗
但藤原朝臣義久慶長三年戊戌五月吉日と有之

一 流 繼豊公御写時雨之御旗
一 流 繼豊公御写白御旗

一 流 繼豊公御写八幡大菩薩御旗
二 流 繼豊公御写名御旗

一 流 一文字御旗

- 一流 十文字御旗
- 二流 綱貴公御旗
- 一流 綱貴公御証摺御旗
- 御兵次具足三千三拾一領
- 内百領 騎馬具足
- 貳百領 中小姓具足
- 八領 仕寄奉行具足
- 貳領 仕寄小頭具足
- 四拾領 仕寄足輕具足
- 貳百五拾領 足輕小頭具足
- 六百領 御持筒方足輕具足
- 五百領 御長柄方足輕具足
- 三拾五領 昇方足輕具足
- 七拾領 小旗方足輕具足
- 七拾五領 大旗方足輕具足
- 千百五拾領 御先足輕具足
- 一領 次騎馬具足
- 着籠貳拾領
- 胸掛百七拾掛
- 内五拾掛 中間方
- 百貳拾掛 人足方
- 小泉御曹一頭 御讓物
- 但秀吉公より 惟新様御拜領
- 御鎗三拾三本
- 但銘々御拵有
- 内一本 小銘長吉作 御讓物
- 一本 加藤謙 右同
- 一本 宗近作 右同
- 御杖鎗一本
- 但御拵有

- 御長刀六拾振
- 御弓千百六拾六張
- 但白木弓塗木弓兵次弓込ル
- 御矢壹万六千六百拾七本
- 但兵次矢込ル
- 御矢根七万五千五百七拾七本
- 但兵次矢込ル
- 御鉄砲千貳拾六挺
- 但兵次鉄砲込ル
- 御狩麩六拾四腰
- 但四腰
- 陰御太刀一腰
- 陽御太刀一腰
- 一本杉御馬印貳本
- 团扇丸御馬印大小六本
- 但銘々はれん相付
- 此外之御道具略ス
- 右御当地御兵具所御道具
- 御巡見御鎧拾領
- 具足百貳拾五領
- 内一領 騎馬具足
- 拾七領 小頭具足
- 三拾七領 御先足輕具足
- 三拾四領 御長柄足輕具足
- 三拾五領 御持筒足輕具足
- 一領 仕寄具足
- 雜矢千百八拾本
- 矢根千貳百八拾本
- 鉄砲七拾貳挺
- 御持鎗貳拾五本
- 御讓物
- 御讓物
- 右同
- 右同

御長刀拾九振

此外之御道具略ス

右九行江戸芝御兵具藏急事方

具足八百四拾七領

内五拾領

騎馬具足

五領

同仕寄具足

百領

歩行具足

内六拾三領

急事方

八拾三領

小頭具足

内拾七領

急事方

貳拾五領

仕寄足輕具足

三拾領

小旗具足

三拾領

大旗具足

百九拾五領

御持筒足輕具足

百六拾三領

御先足輕具足

内六拾九領

急事方

百六拾六領

御長柄足輕具足

御中間胸掛三拾掛

塗木弓百三拾五張

内三拾八張

急事方

雜矢三千七百貳拾貳本

内四百三拾貳本

急事方

矢根千八百五拾四本

内四百三拾貳本

急事方

鉄砲七拾挺

内四拾八挺

急事方

御手鎗七本

御長柄鎗七拾三本

急事方

但誰様御道具ニ而何比より被召入置候訳不相知候

鎗九拾七本

内五拾貳本

急事方

此外之御道具略ス

右九行高輪御兵具藏有之

合塩硝七百五拾三斤

口藥四貫四百九拾目

右貳行壺入ニ而大井御屋敷穴藏有之

〔朱〕 御納戸御道具之事

御太刀拾六腰

内一腰 光世作、長貳尺六寸号小十文字

但頼朝公より忠久公御拝領

一腰 無銘長三尺三寸貳部号大十文字

但書同断

一腰 兼永作、平物長壹尺七寸八部号綱切

但二代之 太守忠時公関東方ニ而承久三年之兵乱、宇治川

を御渡、敵七人御討取被成候付、被遊御帶、夫より御代々

御伝来之御重物ニ而右依御軍功、伊賀国長田郷地頭職御給

候

一腰 青江恒元作、八幡十間切物有長貳尺五寸壹部半

但藤野恕世より差上候

一腰 備前国真利作、長貳尺六寸分半

但家久公より 光久公被遊御讓候

一腰 康次作、長貳尺八寸三部

但將軍義昭公より 義久公御拝領

一腰 衛府御太刀、貞真作、長貳尺貳寸三部

但後水尾院様より 家久公御拝領

一腰 正恒作、長式尺四寸九部

但家光公より 家久公御拝領

一腰 備前長光作、長式尺三寸貳部半

但秀忠公より 家久公御拝領

一腰 吉重作、長式尺九寸八部

但中納言様御太刀

一腰 備前守家作、長式尺壹寸六部

但家光公より 光久公御拝領

一腰 衛府御太刀、無銘、長式尺三寸七部

但光久公より 綱久公^五被進候

一腰 備前国貞行作、長式尺六寸四部半

但近衛大納言家久公より 吉貴公^五被進候

一腰 三条吉家銘有、長式尺五寸分半

但淨峯院様為御遺物 重豪公御拝領

一腰 衛府御太刀備前兼光作、長式尺壹寸

但出所不相知候

一腰 兵庫鎖御太刀、無銘、長式尺三寸七部半

但天智天皇御太刀と申伝、顯娃牧聞社宝殿^五格護有之候処、
思召被為在、右宝殿^五納居候筋ニ而此節御譲御道具同様、
御納戸格護被仰付候

一 御腰物四拾八腰

内一腰 宗近作、長式尺八寸貳部

但藤野恕世より差上候

一腰 包平作、長壹尺九寸六部

但於泰平寺関白秀吉公より 義久公御拝領、当分御小サ刀御
拵有

一腰 吉房作、長式尺五寸

但義久公富隈^五被成御座候節、山伏持參差上候

一腰 長光作、長式尺三寸

但家康公より 忠恒公御拝領

一腰 来国光作、長式尺三寸六部

但家光公より 光久公御拝領

一腰 正宗作、長式尺三寸九部

但秀忠公より 家久公御拝領

一腰 来国行作、長式尺六寸壹部半

但書同断

一腰 無銘、左文字、長式尺貳寸

但秀忠公より 光久公御拝領

一腰 無銘、長式尺三寸壹部

但光久公より 綱久公^五被進候

一腰 天国作、長式尺貳寸八部

但書同断

一腰 無銘国行之伝、長式尺三寸五部

但家光公より 綱久公御拝領

一腰 則光作、長式尺四寸四部

但家綱公より 光久公御拝領

一腰 則宗作、長式尺四寸

但家綱公より 綱久公御拝領

一腰 備前吉房作、長式尺六寸八部

但家綱公より 綱貴公御拝領

一腰 備前助真作、長式尺三寸五部

但綱吉公より 光久公御拝領

一腰 一文字作、式尺四寸九部

但綱吉公より 吉貴公御拝領

一腰 無銘景光作、長式尺七寸貳部半

但綱貴公より 吉貴公^五被進候

一腰 備前兼光作、長式尺貳寸壹部

但書同断

一腰 備前長光作、長壹尺三寸分半

但綱吉公より 綱貴公御拝領

- 一腰 無銘貞宗伝、長式尺三寸九部
但近衛関白基綱公より 綱久公^五被進候
- 一腰 三条吉家作、長式尺四寸六部半
但家宣公より 吉貴公御拝領
- 一腰 備前則宗作、長式尺四寸六部
但家継公より 継豊公御拝領
- 一腰 越中則重作、長式尺三寸壹部
但家継公より 吉貴公御拝領
- 一腰 無銘、米園光作、長式尺三寸貳部
但吉宗公より 吉貴公御拝領
- 一腰 貞宗作、長式尺三寸八部半
但吉宗公より 継豊公御拝領
- 一腰 正宗作、長式尺貳寸八部半
但書同断
- 一腰 包永作、長式尺三寸九部
但吉宗公より 益之助様御拝領
- 一腰 大和志津、長式尺三寸貳部半
但吉宗公より 宗信公御拝領
- 一腰 延寿園資作、長式尺三寸壹部半
但継豊公より 宗信公^五被進候
- 一腰 和州則長作、長式尺三寸九部半
但吉宗公より 宗信公御拝領
- 一腰 延寿作、長式尺三寸七部半
但吉宗公より 継豊公御拝領
- 一腰 備前三郎国宗作、長式尺六寸八部
但宗信公^五 樺山主計久初より進上
- 一腰 信国作、長式尺三寸分半
但吉宗公より 宗信公御拝領
- 一腰 備前国弘利作、長式尺貳寸八部
但家重公より 重年公御拝領

- 一腰 来国真作、長式尺三寸
但書同断
- 一腰 信国作、長式尺三寸六部半
但家重公より 重蒙公御拝領
- 一腰 備前助守作、長式尺五寸貳部半
但家重公より 継豊公御拝領
- 一腰 阿州氏吉作、長式尺三寸貳部
但家治公より 重蒙公御拝領
- 一腰 一文象眼銘、長式尺三寸壹部
但家齊公より 齊宣公御拝領
- 一腰 備前国師景、長式尺三寸
但家齊公より 齊宣公御拝領
- 一腰 青江貞次、象眼銘、長式尺三寸五部半
但書同断
- 一腰 美濃国兼重作、長式尺貳寸五部余
但家齊公より 齊興公御拝領
- 一腰 三原正近、象眼銘、長式尺貳寸六部
但書同断
- 一腰 無銘、備前一文字伝、長式尺五寸
但有馬左衛門太夫より 義久公^五被進候
- 一腰 無銘、敦賀正宗作、長式尺三寸壹部
但綱貴公御腰物
- 一腰 無銘、郷義弘作、長式尺三寸七部
但小川権兵衛より差上候
- 一腰 備前国助平作、式尺四寸
但保昌懷劍ニ而相承之書付一卷添
- 一腰 美濃国兼明、長式尺三寸五部
但家齊公より 齊彬公御拝領
- 一 御脇差式拾腰
内一腰 無銘、長七寸八部

但頼朝公より 忠久公御拝領、号鳩作

一腰 鷹巢御中脇差、三条宗近作、長壹尺五寸三部

但関白秀吉公より 義久公御拝領

一腰 弥正宗作、長八寸五部

但家康公より 家久公御拝領

一腰 堀尾正宗作、長九寸三部

但秀忠公より 家久公御拝領

一腰 筑州住左文字、長八寸五部半

但書同断

一腰 貞宗作、長九寸八部

但家光公より 光久公御拝領

一腰 備前兼光作、長九寸五部半

但家綱公より 綱久公御拝領

一腰 長谷部国重作、長壹尺四寸九部

但光久公より 綱貴公_ニ被進候

一腰 御小サ刀、三原正俊作、長壹尺九寸壹部

但綱貴公より 菊三郎様_ニ被進候

一腰 来国行作、長壹尺壹部

但吉宗公より 継豊公御拝領

一腰 来国光作、長八寸七部

但吉貴公より 宗信公_ニ被進候

一腰 延寿国重作、長九寸四部

但吉宗公より 益之助様御拝領

一腰 源左衛門尉信国作、長壹尺三寸四部

但宗信公_ニ於嘉久様より被進候

一腰 信国作、長八寸七部半

但有徳院様為御遺物、重年公御拝領

一腰 尻懸則長、長八寸三部半

但有徳院様為御遺物、継豊公御拝領

一腰 備前国清真作、長九寸六部半

但俊明院様為御遺物、重豪公御拝領

一腰 吉光作、長八寸九部

但長瀬市郎左衛門より差上候

一腰 芦屋正宗作、長九寸分半

但光久公御脇差

一腰 御短刀正宗作、長七寸四部壹リ_ン

但御前_ニ被召置候処、此節 思召被為在、御讓御道具之内_ニ

格護被仰付候

一腰 大和国天国、折返_シ銘有、長壹尺四寸壹部

但御讓同前、御納戸格護被仰付候

一 御劍二振

内一振 般若劍、波平行安作、長五寸八部

但太夫判官宗久公御袖刀

一振 血吸劍、弘法大師作、重次、長六寸分半

但弘法大師作とハ申云ニ而中心ニ重次と銘有之

右式行藤野恕世より差上候

一 御二所物并御三所物四組

内一組 簾乗作

一組 榮乗作

一組 祐乗作

一組 通乗作

但御三所物

御小柄三本

内二本 程乗作

一本 祐乗作

御目貫一具 徳乗作

右三行御讓同前、御納戸格護被仰付候

御鉄砲五拾八挺

内一挺 玉目三匁九分、御国張作不相知

但龍伯様御持筒

一挺 玉目三匁五分境筒

但惟新様御持筒

三挺 南蛮筒

内一挺 玉目五匁五分

一挺 玉目三匁五分

一挺 玉目四匁壹分

但惟新様中納言様御間ニ石田治部少輔三成より被進候由申伝有之

三挺 境筒

内一挺 玉目三匁六分

二挺 玉目三匁五分

但中納言様御持筒

一挺 玉目貳匁四分、作不相知三挺からくり

但家久公・光久公御前ニ被召置候

一挺 玉目五匁四分、重信丹波作

但中納言様御持筒

一挺 玉目貳匁八分

但中納言様御懷中筒

一挺 玉目三匁五分、児玉為兵衛作

但光久公御持筒

三挺

内一挺 玉目七匁、児玉為兵衛作

一挺 玉目四匁、松方兵右衛門作

一挺 玉目貳匁九分、右同人作

但光久公御持筒

一挺 玉目貳拾貳匁、薩州住、石神源兵衛尉重永・重次寄合作

但中納言様より 光久公ニ被進候

拾六挺

内一挺 玉目貳匁八分、隈元次兵衛作
一挺 玉目六匁四分、児玉為兵衛作

一挺 玉目三匁九分、平新兵衛作

一挺 玉目四匁九分、日野張

一挺 玉目六匁八分、松方兵右衛門作

二挺 玉目四匁、平新兵衛作

一挺 玉目拾壹匁、御国張作不相知

一挺 玉目拾壹匁五分、児玉為兵衛作

一挺 玉目六匁四分、勝目大藏作

一挺 玉目三匁五分、松方兵右衛門作

一挺 玉目貳匁八分、児玉為兵衛作

一挺 玉目六匁三分、種子筒

一挺 玉目六匁貳分、勝目大藏作

一挺 玉目五匁、右同人作

一挺 玉目四匁貳分、松方兵右衛門作

但光久公御持筒

内一挺 玉目四匁六分、木場新左衛門作

一挺 玉目貳匁八分、右同人作

但綱久公御持筒

七挺

内一挺 玉目三匁、松方七郎兵衛作

一挺 玉目三匁五分、甲斐五兵衛作

一挺 玉目七分、右同人作

一挺 玉目壹匁、御国張作不相知

一挺 玉目三匁、勝目大藏作

一挺 玉目七匁、松方兵右衛門作

一挺 玉目三匁、松方七郎兵衛作

但綱貴公御持筒

一挺 玉目五匁五分、作不相知

但惟新様より田那辺屋道与ニ被下置候処、道与孫出家、京都
相国寺内林光院住持西堂ニ讓置候由ニ而 綱貴公ニ進上

一挺 玉目六匁貳分、松方兵右衛門作
但綱實公より 吉貴公^五被進候

三挺 内一挺 玉目三匁貳分、薩州住重則作
一挺 玉目貳匁八分、松方兵右衛門作
但継豊公御持筒
一挺 玉目三匁五分、兎玉鉄兵衛作
但宗信公^五兵庫殿より進上

六挺

内一挺 玉目四匁三分、兎玉鉄兵衛作
一挺 玉目三分、右同人作
一挺 玉目三匁九分、須賀卯新助作
一挺 玉目貳匁七分、上原十左衛門作
一挺 玉目五匁三分、本野弥太右衛門作
一挺 玉目壹匁八分、兎玉小八作
但宗信公御持筒

四挺

内一挺 玉目三匁四分、兎玉鉄兵衛作
一挺 玉目三匁五分、右同人作
一挺 玉目貳匁九分三厘、右同人作
一挺 玉目三匁、右同人作
但重年公御持筒

二挺

内一挺 玉目拾匁、松方七左衛門作
一挺 玉目七匁、松方七郎左衛門作
但齊宣公御持筒

一 御琴一面 遠雁

但後水尾院様より 家久公被遊御拜領候処、元禄九年罹火災 綱實
公摸写被仰付置候
御琵琶一面 松風

但龜山又兵衛^{前名}より 義久公^五進上
右御代々様御譲御道具ニ而候

〔卅二〕 御馬並御馬具之事

一 御馬百五拾八疋
内五疋

御召
但御召馬五疋被召立置、其後増減有之候処、寛政四年子閏二月拾疋
被召置候旨、於江戸被仰渡置候処、御儉約年限中、五疋被相減候
旨、享和元年酉六月被仰渡候

御召下地
但御在国ニハ三疋、御在府ニハ貳疋、被召立候旨、寛政二年戌九月
被仰渡置候処、貳疋被仰付候旨、享和元年酉六月被仰渡候

御下地馬
但文政六年未十二月奥向より被召建旨被仰渡候

御立馬
拾五疋

但御在府御在国共御定立御馬三拾疋被定置候旨、寛延三年午正月被
仰渡候処、向後不及定置、依時増減も可有之旨被 御出候旨天明
六年午十二月被仰渡置候処、御在国ニハ三拾五疋御在府ニハ貳拾
五疋被定置候旨、寛政二年戌九月被仰渡候処、右之通被立置、出
入之節、拾五疋位迄ハ立置候様被仰付候旨、享和元年酉六月被仰
渡置、文化十一酉十月五疋被相重立置候様被仰渡候

若殿様御用

三疋 御馬

右 同

三疋 御稽古馬

但右式行被召建候旨、文政八年酉二月十六日被仰渡候

拾六疋 摸合方立馬

但神当流・鎌倉流・大坪流稽古馬并犬追物方御預馬之儀、右之通名
目被相替、御借馬之節ハ右之内より差出候様被仰付候旨、寛政二

年戌九月被仰渡候

右之内

五疋

右鎌倉流稽古馬被定置候

五疋

右犬追物稽古馬為用、川上十郎左衛門^五式疋御預、四疋^八外四人^五御預被仰付候旨、被仰渡置候處、天明五年巳九月、四疋被相重、稽古人數^五十郎左衛門より見計を以御預等以前之運被仰付置候得共、御俟約年限中五疋被減相候

四疋

右大坪流稽古馬、五疋被定置候得共、御俟約年限中壹疋被相減候

五疋

右沖当流稽古馬七疋ニ被定置候得共、前条同断ニ付式疋被相減候

五疋

右高麗流稽古馬為用、被仰付候旨、寛政元年酉八月被仰渡候

五疋

外ニ五疋被相減候旨、文化五年辰十二月被仰渡候

九疋

右御借馬、拾五疋被立置候處、段々減少被仰付、御在府ニハ九疋、御在國ニハ七疋、被召立候旨、文化五年十一月、於江戸被仰渡候

一

御鞍一口 海有
但梨子地蝶之高蒔絵、紫大形綱、虎華泥障野留四方手添、寛永三年丙寅八月十九日 家久公從三位中納言御昇進之時 後水尾院様より寮之御馬、御鞍置ニ而御拜領之由候

一

御鞍一口 無海
但紋猿金金具

從 義久公御吉例之御鞍ニ而候と 御意候而 家久公^五為被進御鞍

ニ而候

御鞍一口

但黒塗御紋金金具

一

義弘公伊東家御討對之節、御嘉例能御鞍鈴ニ而從 義弘公^五為被進御鞍ニ而候

御轡一間正宗作

義弘公御秘藏被遊候

一

右四ヶ条從此前御讓物ニ而候

御鞍一口 海有

但龜甲高蒔絵金金具散^五四方手添
從 將軍尊氏公 貞久公御拜領被遊候御鞍鈴ニ而候

一

但菊之御紋高蒔絵、梨子地・桐之地紋蒔絵有、鏡黒塗内朱塗片突之御鈴、紋丸之内千鳥之すかし、伊勢因幡守貞成正作之由候

一

天正十五年七月 義久公於京都、御不快被遊御座候御、從 秀吉公御医師被差遣、早速御平愈ニ而候、依之於聚樂第 秀吉公^五御目見、右之御礼被仰上候處、御鞍置馬并御長刀御拜領被遊候、右御鞍鈴ハ其節御拜領ニ而候

一

右式ヶ条享保七年寅新ニ御讓物ニ被召加候

一

右御讓御道具ニ而御座候、右之通御家老中より書附渡置候

一

御鞍一口 無海
但黒塗御紋金金具、乘合青貝十二支之図形、高蒔絵、上野介作
御鈴一掛
但黒塗金粉掛内朱鳩胸十二支之図形、高蒔絵有
右御鞍鈴ハ 義久公御秘藏為被遊由ニ而島津兵庫忠朗被致格護候、綱久公加治木^五御光儀候節、忠朗より進上ニ而候、御厩江申候候、慶長五年九月 義弘公関ヶ原 御退陣之節、御召御馬、福山野、黒栗毛名小紫、於中途別而草臥、乍御鞍置、被捨置候、御中間小川与

三右衛門・江口佐兵衛、兼而御秘藏之御鞍を存候故、右兩人御跡ヲ馳戻り、御鞍を取、解鞍仕、肌ニ着御供為仕之由候、御記録所書附之内、右御退陣之節、御供仕候御小者、大重平六覺書ニハ御馬青毛名紫と申候、堺之住吉大明神ニ御寄進被成候由、相見得申候、右通御座候得ハ御殿方申伝之趣とハ相遣仕候得共、御馬ハ住吉ニ御寄進ニ而御鞍之儀ハ御持下り可被成事と存申候

御鞍一口 海有

但梨子地石餅之紋、金粉鑄掛、伊勢駿河守入道照安作

右御鞍ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但黒塗御紋、高蒔絵有

御鏡一掛

但黒塗御紋、高蒔絵内朱塗すかし崩格子有

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鏡一掛

但梨子地丸之内、丁子紋有

右御鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但龜甲高蒔絵、居木黒塗御紋金金具

御鏡一掛

但龜甲高蒔絵、御紋金金具内朱塗

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗一疋獅子之紋金金具、伊勢上野介作

御鏡一掛

但黒塗無紋内朱塗大取すかしカ

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地御紋金金具

御鏡一掛

但梨子地無紋朱塗片突すかしわらひて

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗茗荷之紋金金具、伊勢駿河守入道照安作

御鏡一掛

但黒塗大花茗荷高蒔絵、内すかし花菱

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 無海

但黒塗御紋金金具、金粉鑄掛

御鏡一掛

但梨子地桃之紋金金具

右御鞍鏡ハ 義久公御秘藏被遊候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地葵御紋金金具、伊勢因幡守貞直作

御鏡一掛

但梨子地葵御紋金金具、伊勢因幡守貞仲作

右御鞍鏡ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

御鞍一口 海有

但梨子地金粉桐唐草獅子縁青貝江南鞍

右御鞍ハ 御家御代ニ御相伝被成来候由、然共右由緒御記録所ニ相知不申候

一 御鞍一口 無海

但黒塗無紋、号小鞍

右御鞍ハ島津兵庫忠朗より進上之由、然共右之訳御記録所ニ相知不申候

一 御鞍一口 無海

但波之蒔絵、三笠之紋有

右御鞍ハ 家久公ニ寺沢志摩守正成より被進候由、然共右之訳、御記録所ニ相知不申候

一 御轡一間

但市村吉勝作

右御轡ハ 家久公ニ上田吉之丞より進上仕、御秘藏被遊候由、右吉之丞と申者ハ 家久公御心安被仰下候哉、差上候書状御家譜之内ニも段々相見得申候得ハ、右轡進上可仕事ニ御座候

一 御鞍一口 無海

但黒塗無紋

右御鞍ハ京極若狹守殿家来、仲長門氏一入道道柄と申者、此方ニ預ニ罷成居候、道柄より進上仕候由、其訳御記録所ニ相知不申候、然共道柄事、此御方ニ御預被成候事ハ別条無之事情ニ付、右御鞍進上仕候半と存候、右之通御記録奉行より申出候付、島津將監より書附被置候

右肝要御道具ニ而御座候、御由緒有之、御鞍・御轡・御鑑、江戸ニ

ハ不召置候

一 鞍 百口

一 轡 百間

一 鑑 百掛

右三行御軍役方

一 馬面拾頭

内六頭 御召御用

四頭 御召替御用候哉、委細相知不申候

右之内

一頭 黒塗内朱塗十文字小紋付

一頭 金磨内朱塗十文字小紋付

一頭 黒塗内金磨

三頭 金磨内黒塗

一頭 金磨内黒塗布着せ

一頭 内外共黒塗

一頭 内外共へにから塗

一頭 内外共黒塗惣様縁朱塗

一 馬具足一領

但熊毛さね金磨真田打緒付

一 馬鑑式拾八領 金磨

内一領 熊毛さね黒塗

式行

合式拾九領

内五領 御召御用

式拾四領 御召替御用候哉、委細相知不申候

右之通御当地有物御座候

江戸御軍御方

一 鞍 拾口

右同

一 木鑑 拾掛

右同

一 轡 拾間

右先年御類焼後、右之通被差登置候

江戸模合方

一 鞍 式拾七口

江戸模合方

一 鑑 式拾七掛

右同

一 轡 式拾一間

〔朱〕
〔卅三〕 塩硝并硫磺員教之事

一 白塩硝 七万四千四百四拾八斤余

内 四千九百八拾五斤

六万貳千五百九拾貳斤

三千八百七拾壹斤余

一 合塩硝 五万七千七百貳拾八斤余

内 四万貳千六百五拾四斤

五百斤

壹万貳千四百四拾九斤

貳千四百貳拾五斤余

一 鶴目硫磺 七千五百五斤半

内 三千五百七拾斤

貳千三百貳拾貳斤半

千貳百拾三斤

一 鷹目硫磺 千六百五拾六斤半

内 千五百五拾七斤

貳百八拾四斤

貳百拾五斤半

〔朱〕
〔卅四〕 御数寄屋御道具之事

平野肩衝

一 御茶入一箇

但秀吉公より 義弘公御拝領之由

八景

御讓物

御釜一口

但頼朝公より 忠久公御拝領之由

右貳行御家老連名之御由緒書相添

薩摩文琳御茶入一箇

但国分様御所持之由

種子茄子御茶入一箇

但種子島左近進上

古今集一冊

但定家卿筆 国分様江 龜山又兵衛進上

東坡墨跡一帖

但惟新様御所持之由

鶴形之御茶入一箇

但名物御什物之由

右鶴形御茶入 吉貴公御遺物ニ御献上有之筈候処、御什物之故、外

ニ似寄候御茶入有之、利休鶴首代金貳千枚相極候御茶入ニ而御献上

ニ相成候、然共右鶴形御茶入御献上之筋ニ而候

繩簾御水指一箇

但名物御什物之由

曜麥御茶碗一

但名物御什物之由

右七行島津將監書附相添

御掛物一幅

但趙昌筆、三種菓子之絵

右御掛物、此節 御前御用ニ付御取切ニ相成候得共、御数寄屋御帳

面ニハ是迄之通、召置候様被仰渡候

御硯箱一

但東山殿時代蒔絵

御硯一面

但未央宮瓦

熊皮蓋御天目一

右 同

- 一 同御花入一
- 一 御花入一
- 一 但青磁竹之子手
- 一 御掛物一幅
- 一 但牧溪筆、鸚鵡繪極札有
- 一 御掛物三幅對
- 一 但中所翁筆、龍之繪、左右高然暉筆、山水之繪
- 一 若狹盆一枚
- 一 但堆朱陽成添狀有
- 一 御硯一面
- 一 但銅雀台瓦
- 一 御硯箱一
- 一 但東山殿時代時繪
- 一 御軸物一卷
- 一 但舜拳筆極札有
- 一 右御当地御數寄屋正有之
- 一 御掛物一幅
- 一 但牧溪筆八、鳥之繪
- 一 御硯一面
- 一 但未央宮瓦
- 一 右江戸御數寄屋正有之
- 一 右当地江戸御數寄屋重御道具

(朱)
〔卅五〕 置米置銀之事

- 一 真米千貳百三拾石五升
- 一 赤米百六拾六石四斗八升
- 一 文銀三百九拾目

- | | | |
|-----------|---------|---------|
| 一 串木野 | 水引之内 | 一 高江 |
| 一 高城郡高城之内 | 一 平島 | 一 長島之内 |
| 一 西方 | 一 出水 | 一 浦底村 |
| 一 出水之内 | 一 大口之内 | 一 田布施之内 |
| 一 脇本 | 一 平出水 | 一 高橋村 |
| 一 加世田之内 | 一 加世田之内 | 一 久志 |
| 一 小浦 | 一 大浦 | 一 山川 |
| 一 坊泊 | 一 穎娃之内 | 一 高岡之内 |
| 一 内之浦 | 一 石垣 | 一 五町村 |
| 一 上甌島 | 一 志布志 | 一 花岡之内 |
| 一 佐多之内 | 一 下甌島 | 一 古江 |
| 一 伊佐浦 | 一 小根占 | |
- 右置米并置銀之儀、翌年米出来前迄、右諸所御藏正差置申候
- (朱)
〔卅六〕 高式百石以上士人数並依人躰持高員数被相究候事
- | | |
|----------|-------|
| 一 一百貳拾五人 | 鹿兒島 |
| 一 壹人 | 三万石以上 |
| 一 六人 | 壹万石以上 |
| 一 壹人 | 八千石以上 |
| 一 壹人 | 七千石以上 |
| 一 壹人 | 六千石以上 |
| 一 貳人 | 五千石以上 |
| 一 貳人 | 四千石以上 |
| 一 貳人 | 三千石以上 |
| 一 肆人 | 貳千石以上 |
| 一 七人 | 千石以上 |

役人
の
道之類

壹 人 九百石以上

貳 人 八百石以上

參 人 七百石以上

肆 人 六百石以上

伍 人 五百石以上

拾 五人 四百石以上

拾 四人 三百石以上

拾 七人 貳百石以上

御役人・小役人明細帳ニ載候程之者、高直之願申出、又ハ高直之願申出等候得共、支有之候故、所務迄を請取候通、銘ニ支配頭ニ申出候上高奉行ニ申出候節、今迄高奉行より当人支配頭ニ右之首尾申出候儀、別条無之哉之旨、相尋候上、書附を以、又ハ明細帳之首尾有之事情得共、以後右之通、首尾仕候ニ不及候条、銘ニより高奉行ニ高直之儀申出候節、御法之通相しらへ、申出、高直相濟候節、明細帳仕付候首尾当人支配頭ニ可申出候、且又支有之候高之儀ハ、其趣承届、是又書附を以銘ニ支配頭ニ可申出候、其書附を以、明細帳仕付可申渡旨享保十巳十月、被相定候事

一 外城養子之儀、三代目より五拾石之節ニ而ハ不及何事候間、高奉行承届、御格式を以、相しらへ、高相直候様可仕候、御規帳ニも右之訳張紙ニ而可記置旨、享保十四西閏九月、被相定候事

一 高相私候者、取込拝借有之、右引当無之者ハ高直御免不被仰付事候得共、高相求候方より返上方引請、掛合証文差出候者ハ高直御免被仰付高相求候者より掛合難成者ハ高直御免不被仰付御法ニ候得共、高相私候者、無拠者より返上方引請、掛合証文を以、高直之儀、願於申出者時々吟味之上、可被差免旨、享保十四西六月、被相定候事

一 外城衆中之儀、惣而百石以上ニハ高上御免被成間敷候、以前より衆中筋ニ而三四代差立勤来候者之子孫ハ百石迄高上御免可被成候、代々衆中筋目ニ而も所衆并迄之御奉公相勤候者ハ五拾石以上九拾石余之高上御免被成、百石高上ハ御免被成間敷候、祖父・曾祖父代御救免者之子孫、当時衆并ニ勤居候者ハ五拾石迄之高上御免可被成旨、被定置候得

城衆中
高上

共、自今以後ハ右鉢家筋之者ニ而も其者之器量行跡不宜、又ハ下輩之家業等致候者ハ高上御免被成間敷候、往々屹役目をも可相勤程之者家業宜候ハ、御法之通高上御免可被成候間、高上之儀申出候節、右之趣を以、暖致吟味、其上地頭前ニ而委相しらへ、願取揚候様ニ可相心得旨、諸地頭月番御用人ニ享保十四西八月申渡候事

一 初而高持成高上願出候節ハ其身ニ相糺候上、当人勤方、幼少長病者之訳、其者之支配頭ニ相糺、支有無可申出之、尤勤有之高奉行、為存程之人ハ支配頭ニ申出不及旨、享保十八年十二月、被相定候事

一 高相求、又ハ高相私者、拝借取込等有之、皆返上無之内ハ、高直御免被成間敷旨、享保二十卯九月、被相定候事

一 家内之子孫、取込拝借等有之候ハ、高直御免被成間敷旨、延享四年卯十一月、被相定候事

一 大身分之格ニ而老方石以下之人ハ九千貳三百石迄高上御免可被成候間、九千石不及内ハ、百石千石ニ及候節、前以高上願申出不及、高直可申渡候、九千石ニ及節ハ願申出、違 貴聞、御免之上、高可相直候

一 一所持ハ七千石、一所持格ハ五千石、寄合ハ三千石、寄合并ハ貳千石迄、高上御免可被成候間、右定之高ニ不及内ハ、百石・千石ニ及候節、前以高上之願申出不及、高直可申渡候、右定之高ニ及候節ハ願申出、違 貴聞、御免之上、高可相直候

一 但何千石と限、御免之事ニハ候得共、高直之節、少々余計有之、差支儀も候ハ、御定之高を越候共、百石之内ハ御免之内相加、高可相直候

一 右定之上、高上候儀、為差立成有之候ハ、格別候間、願可申出候、左ノ高有候ハ、其節之勤方、依人御加増ハ 思召を以、高上御免被成儀も可有之候、何そ故も無之願迄ニ而ハ御免被成間敷候

一 寄合并ニ而無之者ハ千石以上ニハ高上御免無之候得共、寺社奉行・御勘定奉行・寺頭・御番頭杯被仰付候者、御役之内ハ勤方依人御加増ハ思召を以、千石迄之高上御免可被成儀ハ依品可有之候間、無拠訳有之候ハ、願可申出候、違 貴聞、何分ニも可被仰付候、尤千石より内ハ百石之節、前以高上之願不及申出、高直可申渡候

一 但千石迄高上御免被成候人有之、高直之節、少々余計も有之、差支儀

大身分
格ノ高上

一所持
一所持

寄合
寄合

高有

明持
高
人持
地之類

一 候ハ、千石を越候而も百石之内ハ御免之内ニ相加、高可相直候
右定より上之高、當時持來候ハ、格別ニ候、持來候者も其上之高上ハ
願迄ニ而ハ御免被成間敷候、勤方依人御免被成儀も可有之候間、無
誤有之候ハ、願可申出候、違 貴聞、何分も可被仰付候、私領并持切
名、仕明高ハ格別ニ候間、定之上、高上候共、前以願申出不及、右之
增高ハ、持高可相加候

右五ヶ条、享保二十一年辰四月、被相定候

一 取込拜借有之人、皆返上無之内ハ高直御免不被仰付事候得共、仕明持
留高、位増等之增高ハ買地等ニハ格別候故、取込拜借無構、持高相加
候儀、御免可被成旨、享保二十一年辰四月、被相定候事

一 諸人持留地之願、申出候節、取込拜借等有之人ハ御免不被仰付御法
ニ候間、右牀之儀無之旨、段々御格式、次第ヶ条を以、願出、其旨得
御指図候上、御免被仰付事候、然処持留地御免被仰付候以後、取込拜
借等仕候人も有之候、新仕明持留地御免被仰付、郡方免証文相渡候以
後、取込拜借等仕候而も最初御免之儀候得ハ現高相求候とハ誤も相替
仕明高之儀候間、高上御免可被仰付旨、延享五年辰五月、被相定候事

一 高直之儀幼少者ハ御免無之事候得共、寄合并以上之儀ハ其身幼少ニ
而も間ニハ人数等差出候、御用をも被仰付、御見合を以、被召仕儀も
候故、幼少ニ而も高上可被仰付候、右より以下之者、幼少ニ而も勤方
有之者ハ有來候通、高上御免被成、勤方無之者ハ都而拾五歳より高上
御免被仰付、拾四歳迄ハ高上御免被仰付間敷旨、元文元年辰十一月、
被相定候事

一 信証院様御方并五方石方御銀物奉行方ハ高名寄帳差上、拜借被仰付候
人も御物取込拜借有之人同前、皆返上無之内ハ高直御免被成間敷旨、
元文二年巳二月、被相定候事

一 持高有之者ニ而も親兄より附屬高之願、申出候ハ、可取揚旨、元文二
年巳三月、被相定候事

一 持留仕明開地元文二年巳七月以前ニ申渡置候分ハ、取込拜借無構、持
高相加候様申付候、以後之儀ハ取込拜借有之者ハ免許不申付候、尤
外城衆中延米・飢拜借米等、為申付置者も取込拜借同前之事候間、願

取揚間敷旨申渡候事

一 寄合並以上、一所一名持切之地、仕明高ハ取込拜借有之候共、高上限
ニ無權、御免可被成旨、元文二年巳九月、被相定候事

一 諸士借銀方ニ請取候高、又ハ買地分地等ニ付而高直之儀、其時ニ可申
出候間、月限之不及証文請取置、五通十通積候節段々相しらへ、年中
幾仕切ニも可得拜図候、且又御加増新地仕明高等之儀ハ御家老任引付
可致其沙汰事

一 外城衆中高之出入、年中押通之筋ニ而ハ朔高帳差出候、支有之候故
毎年正月より六月迄之間高直申付置候間、七月より十二月迄ハ高直請
付間敷候事

一 外城と外城、又ハ鹿兒島と外城、高之出入可為停止事

一 寺社家ニ被附置候高之外、借銀方ニ相請取、高直之儀申出候而も寺社
家ニ御免不被成候間、取次仕間敷候事

一 借銀返弁方請取候高、又高相求候節、百石より千石迄之間、段々百石
宛之涯ニ而ハ其人より願、於御免ハ高直之儀、可有取次事

一 親相果、高直ニ被仰付候人、雖目御礼不相濟候而も、高可相直候、乍
然初而之、御目見不相濟者も可有之候間、左儀成者ハ雖目之御礼不被
仰付内ハ、高相直間敷事

一 高直証文其年之証文ニ而可有披露、若無契、前年之証文を以、申出人
ハ、直月番御家老ニ可申出事

一 借銀方高相渡候人、又ハ高亮仕候人、高直証文出置、其後何そ出入之
儀、於有之ハ其誤申出、高可相直候、不依公私、入与等有之以後高直
証文差出候共、取次有間敷候、雖然入与等前之日付之証文紛無之候ハ
、可有披露事

一 諸士二男・三男不別立人、借銀方ニ高相請取、又ハ高相求、高直之儀
申出候共、取次有間敷事

一 高直証文ニ親子兄弟証換相立儀、可為停止事

一 諸士持高借銀返弁方、又ハ亮高二相渡、高直御免被成、高帳面之首尾
迄も相濟候以後、其年中ニ而も又々自分方ニ高相求、高直之願申出候
ハ、可有取次事

一 万石成御免之儀、別而之訳無之候ハ、御免被成間敷候、当分万石以上之面ニ高上之人有之候共、御免被成間敷事

一 一所持・一所持格・寄合・寄合并其外御家老直触之面ニ、持高百石・千石ニ及候節、前以高上之願、申出不及、高直可申渡事

一 万石以上高上御免無之人も私領并持切名之仕明高ハ格別候間、向後右之增高ニ可相加事

一 附諸士持高位増等之增高も右ニ可進事

一 寄合并之格ニ而無之者ハ千石ニハ御免被成間敷候、只今迄持来候者格別候、持来候者も千石以上ニ而候ハ、其上之高上御免被成間敷候事

一 御家老直触之外、当時屹立候御役被仰付置、又ハ地頭職被仰付置候者、持高千石より内ハ高上御免可被成候、右躰之者、当分持高より上九拾石余、百石之内之高上ハ御法之通、高奉行しらへ申出候ハ、高直可申付候、百石之節を越候節ハ願之上、奉窺御免可有之事

一 但右躰之者、御役御免ニ而も首尾能御免之者ハ持高六百石以上、千石より内之高ニ而候ハ、持高より上、九拾石余、百石より内、高上、其身代ニハ御免可被成候、且又隠居以後、俸代罷成、又ハ首尾惡敷御役御免之者、右六百石以上之持高より上、少ニ而も高上御免被成間敷候

一 祖父・曾祖父代よりも屹立候御役相勤候者、且又地頭職をも被仰付候者之子孫、小番勤来候者ハ五百石成御免可被成候、小番迄を勤来候者

一 五ハ五百石成御免不被成、四百九拾九石余迄之高上御免可被成候事

一 但百石之節を越候涯ニ而願出候節、奉窺、御免可有之候

一 三百石成ハ代ニ士筋ニ而も近代御步行格之勤迄を仕、其身も右通候ハ、御免被成間敷候、乍然江戸詰杯ニ道中鎗持せ候程之勤仕候者ハ依様

一 子、御免被成儀も可有之候、道中鎗持せ候者ニ而も御步行格之者ニ而鎗持せ候共、右躰之者ハ御免被成間敷候、代ニ士筋目ニ而大番相勤候者ハ貳百石成御免可被成候事

一 但百石之節を越候涯ニ而願出候節、奉窺、御免可有之候

一 初而高持之願申出候者ハ吟味之上、御免可被成候事

一 外城養子ハ其身之代ニハ高五拾石ハ被仰付間敷、俸代ニハ五拾石以上

一 九拾九石余迄之高上御免可被仰付候、座附士ハ三拾石ニハ被仰付間敷候、右之通候得共、御奉公之品ニより候而ハ格別ニ候、只今迄持来候者ハ其通ニ候、只今迄持来候も右之程より上之高ニ而候ハ、其上之高上ハ被仰付間敷候、座附士、座ヲ離、士之養子ニ成候者、高上ハ外城養子之格式可為同断事

一 但五拾石成之節ニ而ハ奉窺、御免可有之候

一 外城より養子罷成候者、三四代過候ハ、百石成御免可被成候、座附士座を離、御奉公仕候者、三四代相過、百石成之願申出候ハ、御免可被成候、三四代之内ニ而も諸奉行之格、無役ニ而も御馬廻、又ハ一代小番御免被成候者ハ百石成御免可被成候事

一 但百石成之儀ハ伺之上御免可有之候

一 外城養子ニ而も代ニ小番被召入候ハ、三百石成御免可被成候、且又座附士小番相勤候筋目之養子ニ罷成、小番相勤候ハ、是又三百石成御免可被成候事

一 但百石之涯ニテ奉窺、御免可有之候

一 右之通、享保十三年申十二月、被極置候事

一 小十人之組、新規ニ被相立、持高四拾石余を限、五拾石ハ不被差免旨天明七未七月、被仰渡候事

一 外城より鹿兒島士養子罷出候者、向後之儀外城より持高致所持、直其高持出候者迄を御免可被仰付候、無高ニ而も無契血筋、又ハ為差立誤有之、依願之趣ハ被仰付儀も可有之旨、元文二年巳五月、被相定候事

一 御城下士之内直子無之者、外城より養子之願申出候節、所高持越候敷又ハ父方從弟之統迄、養子御免被仰付候旨、宝曆十三年未八月、被仰渡候事

一 外城衆中文武之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者ハ依願、外城養子被仰付候者とハ訳も相替候条、向後右躰之者、高上諸事鹿兒島代ニ士格可被仰付候、座附士も右同断

一 外城衆中家職之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者、高上之儀、諸事外城養子之格式可為同断、乍然月次、御目見仕度候程之御役、相勤候敷又ハ中通ニも被仰付候程之者ハ百石成御免可被成候、座附士も右同断

一 外城衆中家職之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者、高上之儀、諸事外城養子之格式可為同断、乍然月次、御目見仕度候程之御役、相勤候敷又ハ中通ニも被仰付候程之者ハ百石成御免可被成候、座附士も右同断

一 外城衆中家職之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者、高上之儀、諸事外城養子之格式可為同断、乍然月次、御目見仕度候程之御役、相勤候敷又ハ中通ニも被仰付候程之者ハ百石成御免可被成候、座附士も右同断

一 外城衆中家職之芸能を以、鹿兒島士ニ被仰付候者、高上之儀、諸事外城養子之格式可為同断、乍然月次、御目見仕度候程之御役、相勤候敷又ハ中通ニも被仰付候程之者ハ百石成御免可被成候、座附士も右同断

一 病氣有之、為養生座敷内取拵召置候者、持高之内借銀返弁方相渡候歟
又ハ相払候節ハ無契、親類商人之証文ニ御法之通、証與人相立、高直
願申出候ハ、御免可被成候事

一 鹿兒島士并外城衆中高上御格式、段々被定置候得共、小普請ニ被召入
候者、又ハ幼少、又ハ病者ニ而、御奉公難勤勉之者、御当地外城共向
後高上之願申出候共、只今迄所持候高より上ニハ少ニ而も增高御免被
成間敷候、勿論初而高持之願申出候而も御免有之間敷候、身弱キ迄ニ
而當時御奉公ハ不相勤候得共、相応之御奉公被仰付候得ハ相勤等之者
も可有之候、左様成者、定病人トハ訳も相替候間、高上御免可被成候
条、其意を以高直之しラヘ可仕候、田舎入御暇申出候者、又ハ御暇内
之者ニハ、高上御免被成間敷候事

但 或老躰或身弱有之、御番難勤、代番差立候者、又ハ嫡子何ぞ御奉
公相勤候者ニハ高上御免可被成候

一 鹿兒島士借銀返弁方ニ知行高請取、又ハ買取候者共、高直之儀申出候
節、高主拜借取込之銀米等於有之ハ高相直間敷候、然共返上方之引当相
成程之殘高、又ハ居屋敷致所持候者ハ高奉行しラヘ、申出候上、高直
可申渡候、引当致置候高屋敷、相払候節ハ高請取候者より返上方引請
候ハ、其旨前以支配頭ニ相付、申出差図之上、可相払候

一 高直御格式致相応高可相直等之諸士ニ而も内ニニ而借銀返弁方、高請
取置、又ハ為利私務請取候人ハ其旨双方より高奉行ニ申出置候上所
務請取可申候事

但高直不相濟等之者ハ借銀返弁方、又ハ利私之方たりといふとも内
ニニ而所務請取候儀、不罷成候、尤高上御免無之等之者、内ニニ
而高相求置所務請取候儀、曾而仕間敷候

一 御役人小役人明細帳ニ載候程之高直之願申出候節ハ其段双方支配頭ニ
可申出、或高主幼少、或無契子細有之、高直差支候者ハ高不相直候故
所務迄を請取候節ハ相渡候向よりも支配頭ニ可申出之、銘々首尾申出
候時、高奉行ニ高直之願、又ハ差支候誤、可申出旨、可申渡候之条、
其趣高奉行承届、高直之儀ハ御法之通、相しラヘ申出、高直相濟候節
明細帳仕付之首尾、当人支配頭ニ申出、且又支有之高之儀ハ其段承届

候上、是又書附を以、当人支配頭ニ可申出候、右書附を以、明細帳之
仕付可有之候、尤右或高直之支有之、所務迄を請取候段ハ於高奉行所
、帳面記置、紛敷無之様ニ可致置候事

一 無役之者、高相求候節、無契誤有之、高直申出候儀難成者ハ其子細を
高奉行ニ申出候上ニ而所務請取可申候事

但内ニニ而高相求、別人名付之高、所務仕候儀、堅令禁止候事

一 外城衆中高直之儀、地頭ニ相付、申出、地頭より高奉行ニ可相違候、
其節高奉行より諸事高直之格式を以、相しラヘ被定置候高頭之内ニ而
候ハ、高直相究、高奉行より直ニ地頭ニ可相違候、百石・五十石之節
ニ及候高上之節ハ地頭より月番御用人ニ申出、差図之上、高直之儀ハ
高奉行ニ可申出候事

但取込拜借有之候者、高直之儀ハ鹿兒島士高直之格式可為同断、且
又取込拜借引当致置候高相払候節ハ高請取候者より返上方引請候
ハ、其趣を以、地頭ニ相付申出、地頭より月番御用人ニ申出、御
免之上、可相払候

(朱)

一 本文外城衆中より附衆中ニ高直、何ぞ差障儀も無之筈候間、願出候
者有之候ハ、高直可申渡候、右之訳御規帳ニも可記置候、尤附衆中
其所を逃、外之外城ニ參、持高相直儀ハ其所衆中高相減事候間、得
御差図候ハ、何分ニも御吟味次第、可被仰渡旨、享保十九寅三月、
被相定候事

一 本文附衆中、初而高持成并高上、外城衆中同様可相心得候、右之趣
御規帳ニモ可記置旨、申渡、可承座ニも可申渡旨、享保十九寅四月
、被仰渡候事

一 外城衆中初而高持分地等之儀も地頭より御格式を以、相しラヘ、高奉
行所ニ可申出之、其上高奉行より御格式之旨を以、相究、地頭ニ可相
違候事

一 外城衆中之儀惣而百石以上ニハ高上御免被成間敷候、以前より衆中筋
ニ而三四代差立、勤来候者之子孫ハ百石迄ハ高上御免可被成候、代々
衆中筋目ニ而も所衆并之御奉公相勤候者ハ五拾石以上、九拾九石余迄

之高上御免被成、百石之高上ハ御免被成間敷候、祖父・曾祖父代御赦免者之子孫、当時衆并勤居候者ハ五拾石迄之高上御免被成、其上之高上ハ御免被成間敷候、以前より百石以上之高、持来罷在者ハ御構無之候、当分持高百石以上ニ而其上之高上願出候而も御免被成間敷候事
右之通、享保十三年申十二月被極置候事

〔朱〕 諸役座より相納寄銀之事

文政九戌年分尤年、増減有之

- 一、文銀三千四百貳拾三貫八百七分八厘貳毛
- 内 五貫七百貳拾三匁貳分八厘
- 三百拾六匁八分四厘
- 貳百三拾八貫五百五拾三匁六分壹厘九毛
- 百五拾四貫九百九拾三匁
- 六百九貫五百六拾四匁六分壹厘四毛
- 内 六百八貫七拾三匁三厘四毛
- 老貫四百九拾壹匁五分八厘
- 八百三拾六貫七百四拾三匁壹分四厘八毛
- 四貫四百五拾八匁九分壹厘
- 七貫八百貳拾九匁貳分壹毛
- 三貫八百五拾八匁七分八厘
- 五百八拾五匁五分九厘
- 壹貫貳拾九匁八分七厘
- 五拾貳貫貳百八拾壹匁分九厘貳毛
- 貳拾貫五百三拾七匁三分三厘
- 壹貫三百八匁壹分八厘
- 三百拾五貫八百五拾八匁四分九厘九毛
- 四百九拾三貫四百七拾七匁九分四毛

- 御勝手方浮得方
- 町奉行方
- 山奉行方
- 御厩方
- 御船手
- 鹿兒島御船手
- 久見崎御船手
- 物奉行方
- 御作事奉行方
- 屋久島方
- 御細工奉行方
- 御数寄屋方
- 御台所方
- 宗門改方
- 御薬園方
- 御藩屋方
- 表方御代官方
- 三万石方 貳万石方

春

- 五百五拾七貫貳匁六分七厘三毛 帖佐与方
- 百拾九貫六百七拾七匁七分五厘貳毛 国分与方并
- 御鷹方御納戸
- 御新田御納戸付方
- 外三千石御代官方磯付御代官方壹万石方御代官方当分無之候
- 御勝手方浮得方
- 小判金九百八兩
- 壹歩金四百五拾三切 右同
- 小判金壹万貳千八百八拾七兩 物奉行方
- 壹歩金四千貳百拾四切 右同
- 貳歩金七百七拾切 右同
- 大判金五枚 右同

(原表紙)

薩藩政要錄四

(共六冊)

(原寸縦二八種、横二〇・五種)

〔三十八〕^(朱) 御家老組并御小姓与番頭小番新番御小姓組

人躰之事

一番組人躰五百四拾六人

小組一番より拾一番迄拾一組

御小姓組番頭

平田 平次郎
町田 少兵衛
島津 仁十郎

二番組人躰五百八拾五人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

小林 中太兵衛
比志島 相馬
島山 式部

三番組人躰五百四拾壹人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

鎌田 源左衛門
名越 右膳
島津 藏人

四番組人躰四百五拾貳人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

喜入 多門
赤松 主水
島津 藤次郎

五番組人躰五百貳拾壹人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

川上 東馬
島津 鞆負
北郷 惣次郎

六番組人躰五百三拾貳人

小組一番より拾一番迄拾一組

御小姓組番頭

島津 仲
渋谷喜三左衛門
北郷七郎左衛門

新番人躰貳百貳拾壹人

小番人躰六百七拾人

大番頭支配

右小番・新番共ニ御小姓組番頭致支配來候得共、天明六年午十一月新番
ハ大番頭・小番ハ若年寄支配被仰付置候処、文化六年巳三月小番・新番
共ニ大番頭支配被召替候事

合士人躰四千六拾八人

御家老組人躰九拾六人

但六組御小姓組番頭人数此列相除

島津山城殿	島津右平太
島津内匠殿	島津登
島津大炊殿	郷原彦左衛門
島津伯耆殿	川上主礼
島津但馬	新納内藏
島津和泉	樺山權十郎
川上久馬	北郷權五郎
島津大藏	桂權七郎
島津図書	伊集院藏主
島津丹波	新納縫殿
島津主殿	町田勘解由

島津 李
島津 縫殿
島津 助之丞
新納 浪江
禪山 權左衛門
島津 石見
桂 宇右衛門
島津 頼母
島津 求馬
町田 監物
島津 新八郎
島津 与十郎
北郷 内記
島津 要人
島津 矢柄
吉利 主馬
大野 鶴袈裟
島津 守右衛門
伊集院 伊膳
種子島 伊勢
顯娃 稻千代
小松 式部
入来院 平次
肝付 典膳
菱刈 奎之介
諏訪 甚六
川田 信濃
鎌田 藏人
伊勢 伊織
市田 長門

伊集院 織部
新納 主税
伊集院 隼衛
山田 新介
高橋 要人
仁礼 小吉
二階堂 伊豆
二階堂 源太夫
北条 織部
本田 二郎太郎
相良 平八
平田 八郎四郎
堀 四郎左衛門
小笠原 轍
鎌田 太郎右衛門
鎌田 休之進
市來次郎左衛門
河野 外記
赤松 造酒
宮之原 主膳
関山 軍兵衛
山田 司
岩下 長左衛門
上野 善兵衛
三崎 平太
倉山 作太夫
谷川 休次郎
村橋 昇
北郷 軒
伊勢 平四郎

義岡 藏人
山岡 要人
島津 典礼
末川 将監
島津 彦太夫
川上 孫左衛門
川上 亘
右御家老組人跡之儀、宝永五子年より御城代・御家老・若御年寄・大御目附其外一所持并一所持格・寄合・寄合并迄被召成、最前御家老組被召入置候諸士之儀ハ一番組・三番組・六番組被召成候、尤當時六組之組頭被仰付置候面々ハ其組ニ而御触等有之候付而相除候、且又御家老組之儀前方ハ組頭兩人被仰付置候得共、宝永七寅正月より御家老中繰廻承之候事
合士人跡千九百貳拾五人
右組分之儀、寛永二十年之比始而被 仰出、組拾番外御家老組、寺社家諸座組拾六組有之、以上貳拾六組ニ而其以後六組并御家老組ニ被召成、寺社家諸座組ニ而罷在候士ハ六組御家老組之内ニ被召入、其外之者諸座附ニ而被召置候、右最初組頭被仰付候人数左ニ記之

一 番 島津 安芸久雄
二 番 島津 市正忠広
三 番 佐多 又四郎久孝
四 番 吉利 下總忠張
五 番 島津 左近久守
六 番 榊山 又九郎久広
七 番 町田 出羽忠尚
種子島 左近忠時
伊集院 源助久朝
島津 美作久基
伊集院右衛門久国

西 彦太郎
一代寄合 田畑 武右衛門
右 同 向井 十郎太夫
右 同 佐多 六郎次郎
右 同 坂元 平左衛門
右 同 野村 主礼
右同定府 猪飼 央

川上 上野久連
 八番 彌寝 七郎重永
 川上 將監久將
 九番 鎌田 又七郎正勝
 入来院 伯耆重尚
 伊勢 兵部貞昭
 島津 中務久茂
 島津 彈正久慶
 島津 圖書久通
 御家老組

〔卅九〕 宗門手札御改人数総之事

文政九戌年改

合男女八拾六万五千四百拾壹人

内八千九百貳拾壹人

外男女五千四拾人

男女七万貳千三百五拾人

内五千九拾貳人

七拾五人

内男四千三百貳拾五人

男四千四百六拾六人

女八千三人

男三人

男貳人

女四人

男貳百九拾七人

内六人

男女五万五千貳百四拾壹人

内男七千五百九拾貳人

薩隅日琉球諸島迄

申年札改増

穢多慶賀行脚

鹿兒島

申年札改増

手札御免

士人躰

人躰外士

士妻娘

福昌寺役人

右同人躰外士

右同妻娘

出家

手札御免

鹿兒島近在

女六千六百九拾三人
 男貳千四百四拾七人
 女貳千四百九拾四人
 男七拾五人
 女七拾八人
 男五拾五人
 女三拾三人
 男七人
 女貳人

男女三万五千七百七拾四人

外男女百五人

男四拾人

内六人

内男貳人

男貳人

女六人

男女三拾人

男女九拾貳人

内三人

内男四人

男七人

女九人

男女七拾貳人

男女六百拾五人

内百人

内男百三人

男百四拾壹人

女百拾人

男女百六拾壹人

右同
 三町
 右同
 横井 野町
 右同
 荒田 浜
 右同
 浄染并地神 座問家内
 右同

諸士家来并足輕諸座附寺社門前

京都居附 穢多慶賀

申年札改増

士人躰

人躰外士

右同妻娘

諸座附并下人

大坂居附

申年札改増

士人躰

人躰外士

士妻娘

諸座附

江戸定府

申年札改増

士人躰

人躰外士

士妻娘

諸座附

諸座附

男女貳拾六万五千五百拾四人

薩州諸郷三拾八ヶ所并七島三島込ル

内六千四百拾貳人

申年札改増

内男壹万八百四拾六人

郷士人躰

男壹万九千五百貳拾三人

人躰外郷士

女貳万七千五百拾五人

郷士妻娘

男貳百三拾九人

出家

男女貳拾万三千三百九拾壹人

内男八万貳千貳百三拾八人

諸在

女七万五千七百七拾四人

右同

男七百貳拾壹人

苗代川

女六百六拾九人

右同

男壹万六千四百五拾七人

浦浜

女壹万五千九百貳拾三人

右同

男千四百五拾八人

野町

女千四百貳拾八人

右同

男女八千六百六拾八人

郷士下人并足輕中
宿諸座附寺門前

男五拾五人

赦免居付并遠島者
穢多慶賀

外男女貳千貳百三拾壹人

男女拾貳万八千九百九拾四人

隅州諸郷三拾五ヶ所屋久島口永良部島込ル

外三千八百八拾八人

申年札改減

内男八千三拾壹人

郷士人躰

男壹万貳百五拾五人

人躰外郷士

女壹万四千五百九拾貳人

郷士妻娘

男百六拾五人

出家

男女九万五千九百五拾壹人

内男四万貳千七百七拾四人

諸在

女三万七千五百六拾八人

右同

男三千七百貳拾八人

浦浜

女三千貳百四拾七人

右同

男千八百三拾七人

野町

女千五百九拾四人

右同

男三百八拾七人

笠野原

女三百七拾壹人

笠野原

男百拾六人

半浦

女八拾九人

右同

男女四千八百貳拾壹人

郷士下人并足輕中
宿諸座附寺社門前

外男拾人

公義流人

男拾七人

遠島人

男女九百九拾七人

穢多慶賀

男女五万六千六百六拾三人

日州諸郷拾九ヶ所

外七百四人

申年札改減

内男四千三百五拾四人

郷士人躰

男五千三百貳拾壹人

人躰外郷士

女七千七百貳人

郷士妻娘

男七拾七人

出家

男五拾人

飯隈山

女四拾貳人

右同家内

男女五百七拾四人

社家

男女三万八千五百四拾三人

内男壹万六千七百貳拾三人

諸座

女壹万四千七百三拾五人

右同

男八百九人

浦浜

女六百七拾五人

右同

男八百五拾貳人

野町

女七百四拾三人

右同

男女四千六人

郷士下人并足輕中
宿諸座附寺社門前

外男女六百七拾貳人

男女拾四万五百四拾九人

外五百四拾壹人

内男貳万八千八百七拾九人

女貳万八千八百貳拾壹人

男女拾人

男八拾九人

男女八万九千七百五拾人

内男女七万五千四百拾八人

男女壹万四千三百三拾貳人

外拾六人

男女三万六千三百七拾五人

内三百貳拾九人

内男百九人

女七拾貳人

男女三万五千八百七拾四人

男女三百貳拾人

外八百五拾九人

内男四人

男女九千貳百貳拾三人

男百貳人

男女壹万八千三百三拾八人

内千六百六人

内男七人

男女壹万八千四百拾七人

男拾三人

男女百七拾壹人

男女壹万三千六百貳拾五人

内千五拾壹人

穢多慶賀

琉球

申年札改減

按司親方并士

右同士妻娘

社家

寺院

諸在

家来其外末

行脚

大島

申年札改増

郷士格

右同妻娘

諸在

遠島者

喜界島

申年札改減

郷士格

諸在

遠島者

徳之島

申年札改増

郷士格

諸在

遠島者赦免居附

遠島者

沖之永良部島并与論島

申年札改増

内男女壹万三千五百七拾人

男女拾三人

男四拾壹人

男壹人

男女六万八千人

内九百拾六人

男壹万貳千五百五拾貳人

内四千三百三拾六人

七千八百拾六人

女壹万五千五拾九人

男女百四拾貳人

男六拾八人

男女四万四千五百七拾九人

内男貳万七千百貳拾貳人

女壹万五千九百四人

男貳千八百七拾四人

女貳千四百三拾四人

男貳百六拾貳人

女貳百七拾壹人

男女五千七百拾貳人

外男女五百七拾四人

男女三千六百貳拾人

内男千六拾五人

女九百九拾五人

男八人

男女千五百五拾貳人

内男六百三拾壹人

女五百六拾四人

男六拾四人

諸在

遠島者赦免居附

遠島者

出家

薩州 私領拾三ヶ所

申年札改増

家来人跡

家来人跡外

家来妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

浦浜

右同

野町

右同

家中足輕并私領居

住寺社門前末

穢多慶賀

入来

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

野町

壹

女五拾三人
男女貳百四拾人
外男女拾人

喜入多門私領

男女壹万百七拾五人

内男千貳百五拾五人

女千三百六拾人

男拾人

男女七千五百五拾人

内男貳千三百七拾八人

女貳千五百九拾五人

男千百八拾七人

女八百三拾壹人

男女五百五拾九人

外男女七拾三人

男女壹万貳千三百五拾五人

内男千九百四拾八人

女千七百七拾人

男八人

男女八千六百貳拾九人

内男三千五百六拾壹人

女三千百八拾七人

男七百八拾五人

女七百八拾壹人

男拾五人

女拾三人

男女貳百八拾七人

外男女拾四人

島津主殿私領

右同
家中足輕以下末
慶賀

鹿龍

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦人

右同

家中足輕以下末
穢多

島津李私領

知覽

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦浜

右同

野町

右同

家中足輕以下末
慶賀

男女三千五百貳拾四人

内男九百七拾九人

女八百六拾人

男五人

男六人

男女千六百七拾四人

内男五百九拾貳人

女三百八拾九人

男拾五人

女六人

男女六百七拾貳人

外男女貳拾六人

男女四千四百六拾八人

内男千七百拾七人

女千四百八拾八人

男五人

男女九百五拾八人

内男百八拾人

女百七拾七人

男貳百貳拾九人

女貳百五人

男女百六拾七人

外男女拾七人

男女千三百拾七人

内男四百拾九人

女三百六拾三人

男女貳拾七人

男貳人

北郷内記私領

永吉
家来
家来妻娘
出家

社家

百姓

右同

浜人

右同

家中足輕以下末
慶賀

平佐

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦町

右同

家中足輕以下末
慶賀

黒木

家来

家来妻娘

社家

出家

男女五百六人

内男貳百貳拾人

女百九拾八人

男女八拾八人

島津但馬私領

男女五千八拾七人

内男六百三拾七人

女六百四拾四人

男三人

男女三拾貳人

男女三千七百七拾壹人

内男千四百六拾五人

女千三百四拾八人

男貳百七拾六人

女貳百八拾貳人

男女四百人

外男女百九人

肝付典膳私領

男女七千三百四拾三人

内男九百七拾六人

女八百拾人

男女拾九人

男七人

男女五千五百三拾壹人

内男貳千五百壹人

女貳千三百九拾八人

男九拾人

女八拾六人

男女四百五拾六人

百姓 家中足輕以下末
 右同 慶賀穢多
 日置 家中足輕以下末
 百姓 慶賀穢多
 浦浜 家中足輕以下末
 右同 慶賀穢多
 喜入 家中足輕以下末
 家末 慶賀穢多
 家來妻娘 慶賀穢多
 寺社家 慶賀穢多
 出家 慶賀穢多

小松式部私領

男女貳千九百八拾人

内男四百貳拾五人

女四百人

男三人

男女貳千五百五拾貳人

内男九百四拾八人

女八百五拾五人

男六人

女六人

男女三百三拾七人

島津図書私領

男女八千八百九拾九人

内男千貳百七拾四人

女千百六拾八人

男女四拾五人

男八人

男女六千四百四人

内男貳千三拾六人

女千八百貳拾人

男百五拾壹人

女百六拾七人

男女貳千貳百三拾人

外男女三百壹人

男女千八百九拾八人

内男三百四拾六人

女三百五人

男女拾三人

男女千貳百三拾四人

吉利

家來

家來妻娘

出家

百姓

右同

浜人

右同

家中足輕以下末

宮之城

家來

家來妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

野町

右同

家中足輕以下末

穢多慶賀

島津縫殿私領

佐志

家來

家來妻娘

社家

社家

内男六百貳拾九人

女五百四拾六人

男女五拾九人

權山權左衛門私領

男女千五百五拾八人

内男六百拾六人

女四百九拾四人

男三人

男女四百四拾五人

内男貳百三人

女百七拾五人

男女六拾七人

島津伯耆殿私領

男女五千七拾六人

内男四百九拾五人

女四百貳人

男六人

男女四千百七拾三人

内男千七百七拾八人

女千六百五拾貳人

男三拾貳人

女三拾八人

男貳百八拾六人

女貳百三拾七人

男女百五拾五人

外男女拾三人

隅州

男女三万九千六百六拾六人

外五百三拾八人

内男七千八百四拾壹人

百姓

右同

家中足輕以下末

藺牟田

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

家中足輕以下末

今和泉

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

野町

右同

浦人

右同

家中足輕以下末

穢多

私領七ヶ所

申年札改減

内男三千四百三拾人

男四千四百拾壹人

女六千貳百貳拾貳人

男女四拾七人

男七拾三人

男女貳万五千四百八拾三人

内男六千九百五拾七人

女五千四百七拾九人

男三千拾六人

女貳千貳百貳拾四人

男九拾六人

女七拾五人

男貳百九拾七人

女貳百拾三人

男女七千百拾壹人

男拾壹人

男四人

外男女百七拾三人

島津内匠殿私領

男女八千五百貳拾七人

内男千八百貳拾九人

女千三百八拾貳人

男女九人

男九人

男女五千貳百九拾八人

内男千四百三拾七人

女千百八拾八人

男千九拾八人

女九百四拾五人

男女六百三拾人

家来人躰

家来人躰外

家来妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

浦浜

右同

野町

右同

塩屋

右同

家中足輕并寺社門前末

公義流人

遠島者

穢多慶賀

加治木

家来

家来妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

浦浜

右同

家中足輕以下末

穢多

申年札改減

私領七ヶ所

外男女八拾六人

島津仁十郎私領

穢多慶賀

男女千貳百八拾八人

内男三百七拾貳人

女三百貳拾四人

男女三拾八人

男壹人

男女五百五拾三人

内男貳百三拾壹人

女貳百拾九人

男女百三人

島津要人私領

男女千七百三拾七人

内男四百四拾八人

女三百三拾人

男壹人

男女九百五拾八人

内男三百六拾五人

女三百貳拾三人

男百七人

女七拾八人

男女八拾五人

島津大炊殿私領

男女七千八百九拾三人

内男千六百六拾九人

女千貳百九拾五人

男六人

男女四千九百貳拾三人

内男千四百貳拾五人

女千八百八拾貳人

市成

家来

家来妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

家中足輕以下末々

新域

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

家中足輕以下末々

垂水

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

家中足輕以下末々

島津山城殿私領

男女三千三百貳人

内男六百九拾壹人

女五百六拾六人

男七人

男女貳千三拾八人

内男六百九人

女四百九拾五人

男四百五拾五人

男四百五拾四人

女貳百八拾貳人

男女千六百八拾八人

外男女七拾八人

種子島伊勢私領

男女壹万四千貳百八拾五人

内男貳千四百六拾七人

女貳千拾四人

男四拾五人

男女九千七百五拾九人

内男貳千八拾七人

女千四百七拾五人

男貳百九拾七人

女貳百拾三人

男七百九拾三人

女四百七拾七人

男三拾七人

女貳拾人

男女四千三百四拾五人

男拾壹人

男四人

島津山城殿私領

浦浜

右同

家中足輕以下末々

穢多慶賀

種子島

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

右同

塩屋

右同

浦人

右同

野町

右同

家中足輕以下末々

公義流人

遠島人

重富

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦人

右同

浦人

浦人

女三百六拾八人
男女百拾壹人
外男女九人

島津和泉私領

男女貳千六百三拾四人

内男三百六拾五人

女三百拾壹人

男四人

男女千九百五拾四人

内男八百三人

女六百九拾七人

男五拾九人

女五拾五人

男百九人

女七拾四人

男女百五拾七人

日州私領壹ヶ所

島津石見私領

男女壹万八千九百九拾壹人

外六拾四人

内男五千三百四人

内男貳千三百四拾八人

男貳千九百五拾六人

女四千六百三拾六人

男女貳拾壹人

男三拾人

男女九千人

内男貳千貳百四拾三人

女貳千五百三拾三人

男七百八拾人

右同

家中足輕以下末

穢多

花岡

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

野町

右同

浦浜

右同

家中足輕以下末

都城

申年札改減

家来人躰

家来人躰外

家来妻娘

寺社家

出家

百姓

右同

野町

女六百拾八人

男女貳千七百貳拾六人

外男女貳百七拾貳人

右同

家中足輕以下末

穢多慶賀

〔朱〕

前、移地頭在番被仰付置候、並當時移地頭押等

被仰付置候郷之事

一 小林

一 須木

一 飯野

一 加久藤

諸県郡
一 吉田

一 勝岡

一 高尾野

一 阿久根

一 山之口

一 高江

但前ハ久見崎御船奉行壹人御切米百俵被下被召移置候、當時ハ御船奉行之勤方迄ニ而御当地より繰廻被遣候

右諸所前方移地頭被仰付候得共、當時ハ被召止候、御引取相成候年簡相札候得共、不相知候

一 大口

地頭代壹人御役料高百石被下被差置候

一 出水

右同断

一 高岡

右同断

元文元辰年より

押壹人横目兼役ニ而被遣、主従三人御扶持米被下候

一 倉岡

右同断

一 穆佐

右同断

一 山之口

右同断

一 綾

右同断

一 隈之城

隈之城押壹人、向田御飯屋守兼役、役料米九石被下被差置候

一 梶山

在番被相止、島津筑後ハ御預被仰付置候得共、明和二酉八月、明和七寅閏六月引取被仰付、又ハ御預被仰付候

、明和七寅閏六月引取被仰付、又ハ御預被仰付候

移地頭當時被仰付置候郷

一 長島 移地頭老人、御役料高百石、附役老人、役料米九石被下被

差置候

一 甌島 右同断

右式ケ所移地頭御役料高 光久公御家督始比より式百石ツ、被下置候処
其以後百五拾石ツ、被下、當時ハ右之通被下候

〔朱〕
〔四十二〕 御仮屋並 御茶屋之事

一 横井

伊集院之内
一 苗代川

一 市来
一 湊

延享元年焼失以後地頭仮屋取繕 御上下之節相済居、安永四未五月御座之間、御
造次有之候処、天明六年午閏十月別段御仮屋御造立ニ而右御座之間、御造次之場
所ハ御取除相成候

一 隈之城内

高城郡高城之内
一 西方

一 阿久根

出水

一 桜島之内
一 横山

一 田布施

一 麓

右之外御造立又ハ御解除相成候御仮屋

一 潮ケ水

寛政三亥年御造立

指宿之内

一 永井

寛政九巳年御造立

山川之内

一 児ケ水

一 加久藤

一 串良

右三ヶ所御仮屋享和元酉年御解除相成候

一 有村

安永八年亥十月燃之節焼失

御茶屋

一 尾畔

一 磯

一 築地

一 米之津

一 武五本松

一 郡山東俣御支度所

寛政四子年御造立

一 田之浦

寛政六寅年御造立

一 中村

寛政七卯年御造立

一 唐渚

文政三辰年御造立

合式拾ヶ所

〔朱〕
〔四十二〕 誓詞日之事

一 誓詞日ハ細不及吟味 公義并御手前之御精進日外ハ何日ニ而も誓詞可
申付旨、宝永八年卯二月被 仰出候、且又此以前ハ式日被定置候得共
當時ハ右之通候事

但一 六月十八日ハ 忠久公御正忌日ニ付誓詞不被仰付候

一 二月廿三日ハ 琴月様御正忌日付誓詞不被仰付候

一 御先祖様御忌日又は御正忌日ニ誓詞被仰付間敷旨、以前より段々被仰
渡置候も有之候得共、向後毎月十七日計り誓詞不被仰付、其外ハ都而
御精進日ニも誓詞被仰付候旨、寛保三亥十二月被仰渡候事

〔朱〕
〔四十三〕 御家老寄合日之事

一 二日

十六日

廿三日

〔朱〕
〔四十四〕 評定所式日之事

一 三日

九日

十四日

廿二日

廿七日

毎月

一 六日

廿一日

右評定所当分吟味日之外、以来右之通式日相定、御家老一同退出より直ニ可相越候、右付大目附を初、掛人数等ハ平日式日之節之通出席吟味可有之旨、天明七年未七月被仰渡候事

〔四十五〕 犬追物稽古日之事

四日 八日 十一日 十八日
廿一日 廿六日

此以前ハ右之通稽古日被定置候処、其以後稽古日と申儀無御座候
右之通有之候処、当分ハ左之通稽古日被相定候

犬追物稽古日

一日 五日 九日 十三日

十七日 廿一日 廿五日

犬追物射形稽古日

一日 六日 十二日 十六日

廿二日 廿六日

右之通寛延元年辰十一月被仰付候事

犬追物稽古日

一日 六日 十一日 十六日

廿一日 廿六日 廿九日

犬追物射形稽古日

一日 七日 十三日 十七日

廿三日 廿七日

右之通安永四年未八月被仰付候事

〔四十六〕 御使式日之事

毎月 御国許より江戸に十日御使、廿四日飛脚江戸より 右ハ江戸御国許共

御国許より 御国許より 御使廿三日飛脚

毎月兩度ツ、被差立米候得共、向後式日被相替、右之通被仰付候、飛脚之儀ハ御用無之節ハ不被差立候、可成程江戸御国許共御使一度ニ而急成御用之節ハ右外ニも飛脚可被差立候、左候而御使被仰付候節、飛脚ハ一所ニ不申渡、式日差掛御用之程見合、時々可申渡旨、安永三年午六月被仰渡候事

式日御使一度ツ、被仰付置候得共、御子様方互之御左右も御間遠、第一御用之支ニも相成候付、一往一ヶ月ニ二度、一度ツ、隔月ニ被仰付候旨、安永四年未六月被仰渡置候処、御差支之儀有之、以前之通一ヶ月兩度ツ、被差立候旨、寛政十年午七月被仰渡置候得共、一往被相止、右式日通兩度ツ、飛脚被差立候旨、享和元年酉五月被仰渡、同七月每月一度廿九日被差立候段、被仰渡候、然処文化十二年亥六月每月一度十九日被差立候旨、被仰渡候

〔四十七〕 表方支配諸御役座等之事

大身分触役所	大目附座
大番頭座	寺社奉行所
当番頭詰所	六組触役所
御用人座	町奉行所
江戸京大坂御留守居	御兵具所
御使番役所	長崎御附人
道奉行所	御目附役所
御裁許方	御祈念方
宗門改役所	異国船掛
長島移地頭	籠島移地頭
琉球在番	

〔朱〕
〔四十八〕 御勝手方支配諸御役座等之事

- 御勘定所
- 御作事方
- 物奉行所
- 郡方
- 御細工所
- 御代官所
- 御番屋
- 喜界島代官
- 沖永良部島代官
- 御船手
- 高奉行所
- 山奉行所
- 金山方
- 屋久島方
- 御台所
- 徳之島代官
- 大島代官

〔朱〕
〔四十九〕 御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事

- 御側御用人座
- 御納戸
- 造士館
- 御供目附
- 御鳥見役所
- 御庭方
- 御側廻
- 明時館
- 若年寄支配
- 誓詞方
- 御鷹方
- 月番廻
- 御用部屋
- 御広敷
- 御記録所
- 御右筆
- 御楽園方
- 尾畔方
- 御鳥方
- 御近習通

録

御能方
御廐方

川田信濃
御数寄屋方

二階堂伊豆
大目附支配

鉄炮改方

月番廻

公義御用人數改方

伊勢伊織

〔朱〕
〔五十〕 御役被 仰付次第之事

- 御城代
- 御側詰
- 右御役被 仰付候頭八
- 御直
- 御家老
- 若年寄
- 大目附格
- 大目附
- 大番頭
- 御勘定奉行
- 当番頭
- 表御用人
- 御側役
- 京大坂御留守居
- 物頭
- 御使番
- 御広敷御用人
- 御右筆頭
- 御家老
- 大目附格
- 神社奉行
- 御小姓組番頭
- 御側御用人
- 町奉行
- 江戸御留守居
- 御納戸奉行
- 御船奉行
- 御小納戸頭取
- 教授

右御役被 仰付候節ハ御家老より直申渡候

〔五十二〕
(朱)

御城代御家老若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘

定奉行御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行

御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事

一 高貳千石

御家老御役分地

島津下野守久元・同図書頭久通前・御借銀過分相増候節千石ツ、兩

度差上置、久竹・久供御家老職相勤候節も不致拜領候事

種子島藏人久時御役分地ハ不被下、御小付為御役料米千貳百俵、元

禄八亥年より被下置候、彈正伊時事引次御家老職被仰付候得共、御

役料ハ不被下候事

北郷作左衛門久嘉家御家老職相勤候節ハ佐渡惣次郎二代御役料高千

石ツ、被下置候、作左衛門事御役料不被下候事

一 高千石

御所御家老御役分地

島津中務久茂御旅御家老初より貳千石ツ、被下置候事

一 内貳百石

御俸約年限中上地 島津 但馬

一 高千石

御俸約年限中上地 川上 久馬

一 内百石

御俸約年限中上地 島津 丹波

一 高千石

御俸約年限中上地 町田 監物

一 内百石

御俸約年限中上地 北郷 内記

一 高千石

御俸約年限中上地

一 内百石

御俸約年限中上地

一 内百石

御俸約年限中上地

一 内百石

御俸約年限中上地

右御家老為御役料高被下置候事

一 高三百石

内拾石 御俸約年限中上地

一 高三百石

内拾石 御俸約年限中上地

一 高貳百石

内拾石 御俸約年限中上地

一 高貳百石

内拾石 御俸約年限中上地

一 高貳百石

内拾石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内五石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内五石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

一 高百八拾石

内拾七石 御俸約年限中上地

川田 信濃

二階堂 伊豆

小松 式部

菱刈 奎之介

島津 求馬

関山 軍兵衛

島津 登

樺山 権十郎

伊集院 藏主

諏訪 甚六

宮之原 主膳

平田 平次郎

島津 仲

高百八拾石	渡谷喜三左衛門
高百八拾石	小林 中太兵衛
内貳石五斗	御俟約年限中上地
高百八拾石	川上 東馬
内拾石	御小姓組番頭表御用人兼務
高百四拾石	御俟約年限中上地
高百八拾石	町田 少兵衛
高百八拾石	北郷七郎左衛門
高百八拾石	島山 式部
高百八拾石	名越 右膳
高百八拾石	比志島 相馬
高百八拾石	島津 藤次郎
高百八拾石	御小姓組番頭表御用人兼務
高百八拾石	佐多 六郎次郎
内貳石五斗	御俟約年限中上地
高百四拾石	新納 縫殿
高百八拾石	島津 頼母
高百四拾石	川上 主鈴
高百四拾石	桂 宇右衛門
高百四拾石	島津 矢柄
高百四拾石	新納 浪江
高百八拾石	桂 権七郎
高百四拾石	吉利 主馬
高百四拾石	町田 勘解由
高百八拾石	田畑 武右衛門
内四石	御俟約年限中上地
高百八拾石	島津 典礼
高百八拾石	島津 守右衛門
高百八拾石	坂元 平左衛門
内四石	御俟約年限中上地
六石	拜借上地
高百八拾石	向井 十郎太夫

内貳石	御俟約年限中上地
高百八拾石	岩下 長左衛門
高百八拾石	当番頭御御用人勤
内四石三斗三升五合四勺式才	御俟約年限中上地
高百八拾石	市来次郎左衛門
高百八拾石	野村 主礼
内四石	御俟約年限中上地
高百四拾石	末川 将監
高百四拾石	伊集院 伊膳
高百四拾石	島津 大藏
高百四拾石	北郷 惣次郎
御役料米百俵	伊勢 亘
御役料米百俵	川田 求馬
御役料米貳百俵	二階堂 鞆負
御役料米貳百俵	新納 次郎四郎
御役料米貳百俵	島津 権五郎
御役料米百俵	北郷 主膳
御役料米百俵	島津 主税
右御小姓組番頭・当番頭御役料高并為御役料米被下置候事	
但島津仁十郎・喜入多門・島津藏人・鎌田源左衛門・島津鞆負・北郷権五郎・島津新八郎・赤松主水 <small>五八</small> 御役料高不被下候事	
高百四拾石	御側役兼務
有馬 糺	
内四石	御俟約年限中上地
高百四拾石	山田 新介
内四石	御俟約年限中上地
高百四拾石	大窪 源五
内三石六斗	御俟約年限中上地
高百四拾石	御側役勤
高百四拾石	調所 笑左衛門
高百四拾石	御側役兼務
内貳石	御俟約年限中上地
高百四拾石	梅田 九左衛門

高百四拾石	御側御用人格奥医師勤	河村宗胆
高百四拾石	御側役勤	有川勇馬
内貳石	御側役勤	凶師崎源兵衛
高百四拾石	御側御用人格為御役料高、 御俸約年限中上地	種子島六郎
高百四拾石	御側役勤	橋口今彦
高百四拾石	御側役勤	桜井半藏
高百四拾石	御側役勤	堀殿衛
内貳石	御俸約年限中上地	志岐休之進
右御側御用人并御側御用人格為御役料高、 御俸約年限中上地	被下置候事	吉井笑八郎
高百四拾石	御俸約年限中上地	上野善兵衛
高百四拾石	御用人格教授勤	橋口權藏
高百四拾石	御用人格教授勤	猪飼央
高百四拾石	御用人格教授勤	樺山休太夫
高百四拾石	御用人格教授勤	長東市郎右衛門
高百四拾石	御用人格教授勤	窪田筑右衛門
高百四拾石	御用人格教授勤	北条織部
右御用人為御役料高、 被下置候事	被下置候事	石原庄太夫
高九拾石	被下置候事	伊東新太夫
高九拾石	被下置候事	町田宇左衛門
右町奉行為御役料高、 被下置候事	被下置候事	岩元 太右衛門
高九拾石	被下置候事	土岐平太夫
内貳石	御俸約年限中上地	

高九拾石	御俸約年限中上地	田上庄司
高九拾石	御俸約年限中上地	川田彦九郎
内貳石	御俸約年限中上地	有馬權藏
高九拾石	御側役格御広敷御用人勤	松元百集喜
高九拾石	御俸約年限中上地	喜多村良宅
高九拾石	御側役格奥医師勤	山本宇源太
高九拾石	御側役格御納戸奉行動	野崎良右衛門
高九拾石	御側役格御納戸奉行動	種子島次右衛門
高九拾石	御側役格御納戸奉行動	波谷充内
高九拾石	御側役格御納戸奉行動	
右御側役并御側役格為御役料高、 被下置候事	御側役格御納戸奉行動	

〔五十二〕^(朱) 諸御役人御役料被下様之事

御役被仰付候御役料可被下儀ハ御用人・町奉行御側ニ而之御役相勤候者ハ伺可申候、其外之諸役人・御小姓杯ハ例を以伺ニ不及、可申付旨、宝永二年酉九月被 仰出候事

番

大番頭 寺社奉行 御勘定奉行 御小姓組番頭当地頭
右御役料不被下候得共、小身ニ而難統、御役料被下事ニ有之候ハ、高三百石敷、貳百石敷之間、依人御見合次第可被下旨、被定置候得共、其後貳百石宛ニ被相定置候事

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料高百八拾石被下、依人ハ本行之通貳百石被下候

御側表 御用人

右持高五百石以下貳百五拾石以上ハ御役料高百石、持高貳百五拾石以下御役料高百五拾石被定置候事

但右之通被定置候得共、新役よりハ持高五百石以下貳百五拾石以上

二而候ハ、御役料高九拾石被下、依人ハ本行之通百石被下、且又持高貳百五拾石以下ハ御役料高百四拾石被下、依人ハ本行之通被下候

町奉行

御側役

右百五拾石以下御役料高百石

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料高九拾石被下、依人ハ本行之通百石被下候

江戸御留守居

右一詰分御役料米千九百三拾六俵、妻子養料米七拾五俵被下候

京大坂御留守居

右一詰分御心附銀七貫九百五拾目、妻子養料米七拾五俵被下候

御納戸奉行

物頭

右百石以下御役料米七拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米七拾三俵被下、依人ハ本行之通七拾五俵被下候

御船奉行 御使番 御小納戸頭取 御広敷御用人

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

教授

右御役料米貳拾石被下候

御右筆頭

右百石以下御役料米五拾八俵被下候

御作事奉行

右五拾石以下御役料銀七枚被下筋被定置候

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ本行之通七枚被下候

御記録奉行

右百石以下御役料米六拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米六拾三俵被下、依人ハ本行之通六拾五俵被下候

長崎御附人

右御当地ニ而御役料米七拾五俵、長崎詰之節ハ御賦飯米之外為御役料銀、壹貫六百目被下候

長崎御附人格

右御役料米拾壹石六斗被下候

高奉行 物奉行 道奉行 御馬預

右五拾石以下御役料銀七枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ本行之通七枚被下候

御小姓頭取

御側目附

右百石以下御役料米四拾八俵被下候

御小納戸

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

御供目附

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

御目附

御軍師

右五拾石以下御役料銀七枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ本行之通七枚被下候

御裁許掛

右百石以下御役料米六拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米五拾八俵被下、依人ハ本行之通六拾俵被下候

御右筆

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

御右筆格

右御役料米九石六斗被下候

御広敷番之頭

右百石以下御役料米四拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾三俵被下、依人ハ本行之通四拾五俵被下候

山奉行

郡奉行

右五拾石以下御役料銀貳枚

但新役江も本行之通貳枚被下候

金山奉行

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

御細工奉行

右五拾石以下御役料銀四枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀三枚三拾目被下、依人ハ本行之通四枚被下候

屋久島奉行

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

但新役江も本行之通三枚被下候

宗門改

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

但新役江も本行之通三枚被下候

御鳥見頭

右御役料米七石被下候

右五拾石以下之人江被仰付候ハ、本役同前可被下置哉、其節御吟味次第被下答候

御鷹匠頭

右御役料米七石被下候

御同朋頭

右御役料米拾四石被下候

御隱居御附

御茶道頭

右御役料米五拾俵御役料銀三枚三拾式匁被下候

御記祿方添役

右百石以下江御役料米三拾五俵被下候

御作事奉行見習

物奉行見習

右御役料銀五枚三拾目被下候

御馬預見習

右御役料米貳拾七俵被下候

唐船改

寺社方取次

御勘定方小頭

右五拾石以下御役料銀六枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀五枚三拾目被下、依人ハ本行之通六枚被下候

御薬園奉行

右御役料米三拾俵被下候

御庭奉行

右御役料米貳拾七俵被下候

尾畔奉行

右御役料米五拾俵被下候

御鳥預頭取

右御役料米三拾五俵被下候

右御役料米五拾八俵被下候

御膳所頭

右五拾石以下御役料銀六枚

御代官

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀五枚三拾目被下、依人ハ本行之通六枚被下候

御台所頭

右五拾石以下御役料米六拾五俵

御春屋役

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米六拾三俵被下、依人ハ本行之通六拾五俵被下候

御裁許掛見習

右御役料米貳拾九俵被下候

山奉行見習

右御役料米銀壹枚半被下候

郡奉行見習

右五拾石以下御役料米五拾俵

御数寄屋頭

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

奥御同明

右五拾石以下御役料米四拾五俵、支度料銀三枚三拾貳匁

表御同朋

右御役料米四拾五俵

但持高五拾石以下御役料米本行之通被下候訳、御規模ハ相見得不申候

御記録奉行見習

右御役料米五石被下候

御右筆見習

右御役料米六石八斗被下候

右御役料米拾五石被下候

助教

右御役料米八石被下候

助教格

右御役料米七石被下候

学校目付

右御役料米八石被下候

御曆者

右御役料米貳拾七俵被下候

御鷹匠頭見習

諸役人部屋栖ハ此以後御役被仰付候節、時々伺候而以其例可相極候

右付宝永八年卯正月被 仰出置候処、其以後御役名等相替候も有之候付、享保二年被相改、其以來又々為相替儀も有之、右之通書改候事

〔五十三〕^(朱) 諸御役座書役小役人持高依員数役料米并支度料

銀等不被下候事

諸役座筆者・小役人之内、持高五拾石以上之者^江ハ役料米并支度料銀等被下間敷候、部屋栖ニ而も親持高百石以上ニ而候ハ、役料米被下間敷候、只今迄被下置候者ハ此内之通被下之、自今以後相勤候者^江ハ右之通不被下等候由、正徳二年辰七月被仰渡候

高百石以上之家督之人、貳百石以上之部屋栖之人^江ハ支度料銀御扶持米不被下候

但高五百石以下三百石以上之部屋栖、親御奉公相勤候ハ、支度料銀三枚三拾貳匁被下候

高三百石以下貳百石以上之部屋栖、親御奉公相勤候ハ、支度料銀三枚三拾貳匁并御扶持米被下候

- 一 高式百石以下百石以上之部屋栖^五ハ支度料銀、三枚三拾貳匁可被下候
- 一 但親御奉公相勤候ハ、部屋栖^五ハ支度料銀、御扶持米共被下候
- 一 高百石以下五拾石以上家督之人^五ハ支度料銀三枚三拾貳匁被下候
- 一 高百石以下五拾石以上部屋栖^五ハ支度料銀三枚三拾貳匁御扶持米被下候
- 〔朱〕
- 一 〔本文高百石以下五拾石以上之部屋栖之人親御奉公有無無構、支度料銀御扶持米被下候御規模ニ而候〕
- 一 高五拾石以下家督部屋栖共支度料銀三枚三拾貳匁御扶持米共被下候
- 一 右之通享保十三年申十二月御規模帳を以被仰渡置候

〔五十四〕 先祖之勲功且又其身依功代、御切米被下候人之事

- 一 御切米五拾俵 川上 新太夫
- 一 御切米六拾俵 有馬 七兵衛
- 一 御切米六拾俵 新納 四郎兵衛
- 一 御切米四拾俵 藪田 清左衛門
- 一 御切米拾八俵 野崎 兵左衛門
- 一 御切米貳拾五俵 中村 与右衛門
- 一 御切米四拾五俵 入田 次左衛門
- 一 御切米四拾俵 中村次郎右衛門
- 一 御切米百五拾俵 奥山 八左衛門
- 一 御切米九拾俵 川内 織之進
- 一 高五拾石物減
- 一 米五拾七俵 松元 藤之進
- 一 銀七拾壹匁四分 右 同人
- 一 御切米貳百五拾俵 石原 加右衛門
- 一 御切米拾五俵 宮之原六左衛門

- 一 御切米拾五俵 救仁郷等覚院
- 一 御切米百九拾五俵 伊勢 十兵衛
- 一 御切米四拾俵 富山伝内左衛門
- 一 御切米三拾俵 柚木崎平右衛門
- 一 御切米五拾俵 入田与三右衛門
- 一 御切米貳拾五俵 高岡郷士
- 一 御切米百俵 植木 甚左衛門
- 一 御切米四拾俵 志布志 直次郎
- 一 御切米五拾俵 高岡 即心院
- 一 御切米三拾七俵 高岡 永心寺
- 一 御切米四拾俵 国分 立寺
- 一 御切米拾五俵 国分 寿寺

〔五十五〕 御扶持米被下置候人之事

- 一 御扶持米百貳拾五俵 吉利主馬
- 一 御扶持米七拾五俵 山田八郎
- 一 御扶持米貳拾五俵 星野賀七郎
- 一 御切米六拾五俵 羽田宗之進
- 一 御扶持米百五拾俵 東郷 藤兵衛
- 一 御扶持米百五拾俵 般若院住 真連院
- 一 御扶持米三拾五俵 野田之内 寺
- 一 御扶持米貳拾俵 入江十郎左衛門
- 一 御扶持米百貳拾五俵 龜山 主右衛門
- 一 御扶持米貳拾七俵 酒匂次郎左衛門
- 一 御扶持米百五拾俵 本田 二郎太郎
- 一 御扶持米貳拾七俵 新納 源之進
- 一 御扶持米貳拾俵 加藤 権兵衛
- 一 御扶持米貳拾俵 高田十郎右衛門

御切米七拾五俵
 御扶持米貳拾俵
 御扶持米貳拾五俵
 御扶持米貳拾俵
 御切米五拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米百貳拾五俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米貳拾俵
 御切米百貳拾俵
 御切米九拾俵
 御切米百俵
 御切米三拾俵
 堪忍料米三拾俵
 堪忍料米五拾俵

高岡郷士

東郷 長左衛門
 川崎 大右衛門
 山口 直次郎
 田中 喜之助
 東次郎左衛門
 鈴木 理左衛門
 木上 清左衛門
 海老原 庄藏
 井上 志摩守
 齒田 右京
 有屋田 土佐
 湊川 織右衛門
 本田八郎右衛門
 佐久間 勘兵衛
 白尾 金右衛門
 右松 十郎太
 鈴木 清八
 坂元次郎右衛門
 碓山 仲左衛門
 朝倉 源八
 平田 平六
 林 市兵衛
 齒田 与藤次
 黒木 安左衛門
 佐野 力藏
 井上 長次郎
 本田 播摩
 松村 乾
 柳元 十藏
 松元 百集喜

御扶持米拾五俵
 堪忍料米拾八俵
 堪忍料米三拾俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御扶持米貳拾五俵
 御切米七拾五俵
 御切米貳拾七俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御切米拾八俵
 御扶持米九俵
 御扶持米三拾五俵
 御切米貳拾俵

伊集院若右衛門
 岩田 喜藏
 安藤 清右衛門
 西 小十郎
 有馬 權兵衛
 坂口 作市
 山元 彦右衛門
 篠崎七郎左衛門
 町田 平
 堀 殿衛
 江川 小仲太
 大津 多助
 大山 次八
 白石 喜覺
 二見 次兵衛
 種子島次郎右衛門
 神宮司武右衛門
 青山五郎右衛門

(朱)
 一 世御養料米被下置候人之事
 一五十六

一世御養料米三拾五俵
 一世御養料米五拾俵
 御扶持米九俵
 一世御養料米九俵
 一世御養料米九俵
 一世御養料米九俵
 一世御養料米九俵
 一世御養料米九俵
 一 御養料米三拾五俵

梅田 九左衛門
 川上十郎左衛門
 力助
 小太郎
 次郎右衛門
 善三
 さま

一世御養料米拾五俵	本御挾箱持之	朝右衛門	た
一世御養料米拾五俵	本御挾箱持之	嘉右衛門	つ
一世御養料米九俵	本御駕籠者	甚右衛門	と
御扶持米九俵	本御挾箱持	萬七	
御扶持米九俵	本御駕籠捧頭	八	
一世御養料米九俵	本御挾箱持	十	
御扶持米九俵	本御駕籠者	太	
御扶持米五拾俵	吉村	九	
御扶持米九俵	滝	江	
御扶持米九俵	利	助	
御扶持米九俵	本御駕籠者	甚	
御扶持米九俵	本御挾箱持	金	
一世御養料米九俵	本御挾箱持	助	

〔五十七〕 諸御役分高員數之事

高壹万七千四百貳拾石
右御役料高太抵右員數ニ而御座候事

〔五十八〕 諸御役料米并御切米御扶持米其外國中諸払銀

米員數之事

- 一 米壹万四千百八拾壹石七斗九升三合
- 一 右御役料米并役料米御切米御扶持米 錢千七百拾九貫七百文
- 一 銀三して拾七貫百九拾七匁

- 一 右御役料銀并御扶持銀 大判金五枚
- 一 小判金壹万七千四百拾貳匁
- 一 貳歩金千七百九拾貳切
- 一 壹歩金四千四百拾三切
- 一 貳朱銀七百五拾四切
- 一 銀五百貳拾壹貫八百七匁三分
- 一 錢四万四千四百拾八貫六百六拾文
- 一 米七千七百七拾八石七斗貳升
- 一 右八行万払
- 一 右文政九戌年中諸払右之通御座候

〔五十九〕 琉球拜借銀之事

- 一 銀六百四貫目 隔年 進貢船貳艘之時
- 一 銀三百貳貫目 隔年 左右間船壹艘之時

右ハ金銀慶長年中被定候法之通被改候間、琉球より大清^ニ差越候銀料其數を被掛候様ニと從 公義被仰渡趣有之、元祿之正銀と慶長之正銀増之賦を以、元祿銀進貢料八百四貫目之内貳百貫目、接貢料四百貳貫目之内百貫目被減候而も元祿銀と正銀と量數相並積付、并十二月三日井上河内守様^ニ被仰上趣有之候処、被仰出候通同十二日滅方之儀被仰渡候、依之進貢料新銀六百四貫目、接貢料新銀三百貳貫目、正徳六年申七月十六日被相定候事

但右銀高之内半分ツ、ハ琉球方より差渡候事

右ハ先年從 公義段^ニ被仰渡趣有之、貞享四年進貢船料銀八百四貫目接貢船料銀四百貳貫目、被相極置候処、其以後金銀吹替付而正徳年簡右之通被相極候事

〔朱〕 御園藥種御利潤有之品之事

枳実	一	枳殼	一	金銀花
茯苓	一	黃芩	一	瓜品実
木瓜	一	山查子	一	当帰
薏以仁	一	半夏	一	
右御園用外大坂御仕登之上御弘三相成品ニ御座候				
枳殼	一	枳実	一	黃芩
知母	一	芍藥	一	和人參
紫根	一	瓜呂実	一	茯苓
真坊風	一	当帰	一	沢瀉
薏以仁	一	大棗	一	山梔子
金銀花	一	柴胡	一	海人草
山藥	一	白朮	一	蜜
木瓜	一	山朱萸	一	黃蓮
桔梗	一	埋嚮香	一	没明子
白鮮皮	一	半夏	一	やしや
厚朴	一	琉球藍玉	一	砥石
吳茱萸	一	薄荷	一	竜眼肉
蒔蘿	一	朝鮮蓮人參	一	
右諸人申請相成候品御座候				
文銀貳拾貫五百三拾七匁七分三厘				
内書貫五百貳拾六匁貳分五厘				
右書行於大坂御弘三相成藥種代本手差引殘高				
拾八貫貳百七拾六匁七分貳厘				
右書行於御当地諸人申請相成候代本手差引殘高				
七百三拾四匁七分貳厘				
右書行商人 一手申請被仰付候書年分御礼銀				
右文政九戌年分				

〔朱〕 諸士跡目并隱居家督嫡子成養子之儀被定置候事

諸士相果候後、直子有之候而も繼目可被仰付も未相知候処、不達 貴聞 親跡職利運相統仕儀不可然候、向後ハ親相果候跡、致 御目見候子雖 有之、無異儀跡目可被仰付哉と相伺、其上を以致家督候様可申渡旨、 寛文八申七月廿四日被 仰出候事

諸士跡目無之人ハ親存生内、跡目之願可申出、親死去以後ニ一門中ヨリ雖申出候、願之通被仰付間敷候、以御見合可被仰付候、乍然不意之 仕合ニ而親死去候人ハ跡目之願被成御取揚可被下旨、延宝五年巳四月 十九日被 仰出候事

鹿兒島之士逼迫仕、外城養子願申出、相叶候人ハ外城ニ而二男三男 被成御免許候、惣領ハ外城ニ而直親跡相統仕事候間、御免許無之旨、 延宝五年被 仰出候事

御直子嫡子死去、又ハ何ぞ付、二男嫡子被仰付候節ハ末ノ之子共迄、 右ニ相付申出、御免之上可相直旨、正徳二年辰三月被仰渡候事

組中嫡子成之儀ハ以前之通願出、被成御免許候、二男三男之儀ハ右ニ 準管候間、帳内於組所相直、高所ニ時々其旨可致問合旨被仰渡候事

組中之士、嫡子相果候節ハ二男嫡子成之願申上、被仰付事候、二男三 男之儀右ニ準、男上リ之願申出候節、与頭承届、此跡より差免来候、 且又二男相果、又ハ養子參候者別立候者有之候節ハ其跡ニ二男成、三 男成願申出次第、是又差免来候、然共別立候者ハ本家之ニ男之儀ハ不 相通事候得ハ相果候者養子參候者と同前男上リ不差免筈、元文三年午 五月被仰渡候事

御咎目被仰付置候内、相果候者之子、不案内ニ而繼目之願申出候も可 有之候間、組頭并小組頭よりも氣を付、其沙汰可致候、尤右跡之子共 繼目申上様之儀御内意可申出候、御吟味次第可有之旨、享保二年西十 二月被仰渡候事

諸士ニ男三男家ニ而二三代も別立罷在候者、嫡家又ハ二男家跡職無之 節自分之家を禿、致相統候儀有之候、此儀家相統之為ニハ尤之儀候得共

代、別立罷在候家ヲ禿候儀ハ如何之事候間、向後右躰之者ハ被仰付間敷候、其身代別立候者、又ハ子孫之内ニ男三男有之者、又ハ一類之内ヨリ致相統者有之候ハ、其者を跡職願可申出候、若右類之者も無之、家及断絶事候ハ、代、別立罷在候者ニ而も跡相統不致候而不叶訳も有之候ハ、其身之跡を仕居可申候間、相統御免被仰付度旨、願可申出候、尤外城養子ニ而も願可申と存候者ハ是又願可申出候、依其趣御沙汰次第可被仰付候

一 組中之者死人有之節ハ早速申出、組頭可承置候、家督之者相果候時ハ忌明次第法様之書付を以、継目之願可申出候、何ぞ仔細も無之、致延引候ハ、名跡被相立間敷候條、時々沙汰可致候、急ニ跡職之儀願難申出訳相立候儀有之者ハ向後月数十二ヶ月を限、可申出候、若無抱子細も有之、右月数之内、跡職之儀難申出者有之、延引仕候訳候ハ、其趣無油断、可申出候、勿論以御見合、跡職被仰付者ハ格別ニ而候

(朱) 一 与中之諸士、家督之者相果、跡相統之者無之、与帳ニ何某跡と記付未跡職之願をも不申出者共多、有之候、右之者共跡職願申出事候ハ、其訳月限ニ可申出候

一 右之通親類中ニも跡相統之者無之、外城養子をも可致と存候者、又ハ蒙御免、人柄等見合候付而不致延引候而不叶訳も有之候ハ何月限相極願可申出通、是又五日限可申出候

一 右之通与帳跡付ニ而之候者共之親類中ニ可被申渡候
一直子無之、親類中ニも跡相統之者無之、外城養子之願申出等之者も右同断可相心得候、急々相極難申出訳も候ハ、依其趣、御沙汰之上、御取訳も可有之候、乍此上致大形御断をも不申、致延引候者於有之ハ名跡被相立間敷候

(朱) 一 以後ハ其跡職願申出候者之儀十二ヶ月限ニ申出候様ニと御触流を以此節被仰渡候、尤此跡付之面ニハ無御構、向後之事候間、左様ニ可被相心得旨、戌三月被仰渡候事

一 家督之者相果、継目之願別而及延引申出事多有之候、公義之御法ニハ

時刻致延引候得ハ不相立事候処、いつ願申出候而も相濟候と存延引仕候、且亦継目之儀ハ其子共可被仰付候哉、又ハ他之者ハ相統可被仰付哉、思召次第之儀候処、嫡子之儀ハ自家相統仕管と存居候儀、是又心得違ニ而候、依之左之通被相定候事

一 組中之者死人有之候節ハ組所ニ早速申出事候間、可承置候、家督之者相果、直子ニ継目遺言書仕置候ハ、相果候段、組所ニ申出候節、遺言書追而可差出旨をも可申出置候、左候而宛書之親類共より五日中無延引、組所ニ法様之通遺言書可差出候、直子共之儀、継目願之遺言書差出候儀ハ忌中之考可仕候得共、当人忌中ニ而も遺言書ハ親類共より申出候事、御構無之候、何ぞ子細も無之、継目之願致延引候ハ、名跡被相立間敷候、尤御見合を以、被仰付継目之儀ハ格別候事

一 右付与中家督之者相果、跡職願五日中可申出由被仰渡置候処、何之訳も無之、五日過候而願書差出候も有之候、右躰之節ハ被相礼候而継書被致候得ハ猶以相滞等候條、継書之儀ハ早速右延引被致候儀ハ別立而相礼、其訳可被申出旨、被仰渡候事

一 幼少又ハ不時相果候者遺言書無之筈候、相果候段組所ニ申出候節、遺言書無之候継目之儀ハ相極追而可申出旨をも組所ニ親類共より其節可申出置候、左候而直子又ハ親類共之内相慮之者相極、継目之儀親類共より可申出候事

一 遺言書、又ハ遺言書無之跡職願之儀、五日中難申出儀ニ候ハ、何様之訳ニ而差出候儀、交有之段、有筋組所ニ無延引可申出候、其趣次第御取分も可有之候

一 一直子無之親類中、又ハ鹿兒島士ニ而も継目願可申出相慮之者無之家相禿候様ニハ難申出候ハ、勿論御格之通、外城養子之願可申出候、左候而御免之後、急人柄相極候事難成訳も候ハ、何ヶ月程被差延置度旨於申出ハ依其訳、何分ニも可被仰渡候事

(朱) 一 押札ニ而此内月延願申出、御免被成置候者又ハ其段申出ニ不及候、尤御免之月数等合候節、又ハ月延願不申出候而不叶訳有之候節ハ無延引御法之通可申出候

一 長、病氣有之候者相果、遺言書をも不致置、死後親類共より継目之願申出候而其身油断之儀候条、御取揚有之間敷候、勿論御見合を以可被仰付儀ハ格別候事

一 家相統之儀ハ第一之事候処、願申出候儀致延引、縁組之儀ハ若年之者ニハやく取知不急儀を折角申出候者有之候、縁組之儀屹と申出候人、又ハ願出不及幼稚之内より内ニ而致契約置候者有之候、縁組はやく取組候儀不入事候、且又妻致離別候者多、有之、不宜候間向後左様無之様ニと奇ニ可申通旨、先年被仰渡候、猶以右之趣相守可申候、家付訳有之候敷、又ハ無契間柄ニ而縦令内ニ申合ハ仕候得共、願相立候儀ハ無用可仕候、尤致縁組、婚礼をも相整、家相統可仕程之者、縁組之儀ハ御法様之通、願可相立候、勿論右式訳も無之若年之者ニ縁組之願申出間敷候事

右之通御格式被相立候間、無緩疎相守候様組中之面ニ、正被申渡置、尤右之願申出候節ハ於組所も猶無間違様可被致沙汰旨、享保五年子正月被仰渡候事

一 組中之面ニ家督之人相果、嫡子遺言書親類宛書仕置候間、親類より五日中跡職願之儀、右遺言書次書を以申出奉付、右親類忌掛ニ而も本人さへ乍忘中、跡職被仰付被下渡由願出候儀御免之事候条、親類忘中ニ而も誹書仕候儀ハ被差免候条、次書仕候而差出候節ハ忌中ニ而候得共名代ニ而可差出旨、享保五年子二月被仰渡候事

一 家督之者相果、跡職延之願申出候節、月数を以願出来候得共、紛敷候条、右跡延之願申出候者、日数を以申出候様時ニ可被致差図旨、享保十七年子十二月被仰渡候事

一 養子罷成、致家督候者、不縁付、違変之儀、今迄ハ養父方家断絶無構致違変来候得共、向後ハ違変不致候而不叶訳有之候節ハ跡相統之者を見立、其跡仕居置、隠居之願可申出候、其以後依申分ハ本家立滞候様ニも可被仰付旨、被仰出候間、被奉承知、組中地頭所ニ可被申渡旨、正徳元年卯十月被相定候事

一 養子罷成、致家督候者、不縁付、違変之儀、養父方家断絶無構致違変来候得共、向後ハ違変不致候而不叶訳有之候ハ、跡相統之者を見立、

其跡仕居置、其身ハ隠居之願可申出候、其以後依其分ハ本家ニ立滞候様ニも可被仰付旨、去年被 仰出、其節右之旨申渡置候、弥其通相心得可被申出候、且又養子取組之儀ハ互ニ納得之上、親子取結事候処、為差儀も無之、不致違変候而相済程之儀ニも及違変、又ハ養子罷成候者、諸事之慎無之、致違変儀も有之由候、右跡之事ニ而致違変候儀ハ不義理之事候間、無契訳有之兎角不致違変候而不叶訳有之候ハ、親類中ニも得と申談、同意候ハ、熟談之上、申出儀候ハ、取揚可申候、内ニハ不義之筋ニ而表向ハ不縁有之、致違変なと、申出儀共有之候而ハ不事宜候、違変ニ付而ハ其子細申出儀ハ難成訳も有之候条、委細之儀ヲ被聞届候ニハ不及候得共、右心得を以、組頭中氣を附、可被申出旨、正徳二年辰三月被相定候事

一 依願養子被仰付候者、無契訳有之、養子難遂旨有之候ハ、双方親類共申談、同意之上、違変之願御法様之通双方より書物ヲ以可申出候、右養父方之願書ニ実方之親類連名ニ而可願出候

一 養子被仰付置候者、家督以後相統難成訳有之候者ハ双方親類申談、同意之上、養子之養子可仕旨見立置、自分事ハ家督相統難仕訳有之候間、隠居被仰付、何某を養子被仰付被下度旨、可奉願、右願書ハ双方親類連名ニ而双方より可願出候事

一 右養子之儀ハ傍輩之子を内約相極置、願之通屹と被仰付、縁を結罷在事候処、御当地之儀、諸國之格式相替、養子違変之願申出候者多有之候、屹と奉願、為被仰付置事候条、輕ニ敷其恐を不存、亦ハ互ニ不義之至ニ相聞待、旁以風俗不互候、依之先此為被 仰出旨も有之候間、猶奉得其意、違変之願申出候者可有之時ハ右件を以相改候上、可遂披露候、右之旨趣不相違候哉、此間多々間違之儀有之候付而ハ此節亦ニ被仰渡候由、正徳三巳七月被仰渡候事

一 養子罷成候者、無契訳ニ而養子於難遂ハ御法様之通、書物を以、申出跡相統之養子ハ養父方より見合可申出候、養父死後ニ而候ハ、其家之親類より見立可申出候、願之通違変被仰付候ハ、本家ニ立滞候様、被仰付度旨可申出候

一 願之通被仰付候ハ、於本家、最前之通、二男三男之訳帳面記置、何某

先養子と肩書可致置候

一 初而之 御目見不致者、養子罷成、於養父家、養子成之 御目見相濟候

者違交之後、於本家初而之 御目見奉願度旨於申出ハ本家之家督より

組頭ニ可願出候、左候ハ、組頭中委遂吟味候上、右之者兼而之行跡等宜

有之、被召仕候而も相応相勤、器量又ハ何モ芸能等も有之候段、無別

条旨承願候ハ、其訳を以、組頭より 御目見願可申出候、尤所行惡敷

何れの芸能も無之、不相応之者候ハ、 御目見願組頭より申出聞敷候、

候

一 但本家立願以後 御目見不被仰付内ハ尤何れの御奉公も申付聞敷候

於本家、初而之 御目見相濟候者、聳養子違交之後、本家立歸候節、

又ミ於本家 御目見被仰付不及候条、右相違候通、何某先養子と帳面

可記置候

一 聳養子違交之者、本家立歸候以後、兼而行跡等宜被召仕候而も相応相

勤、器量亦ハ芸能も有之段、無別条旨承願候ハ、時節を以、其訳組頭

より可申出候、其後吟味之上、御奉公方可申出候、尤組頭より申出無

之内ハ何御奉公も申付聞敷候

一 養父并養子よりハ可及違交子細も無之候得共、聳養子之妻、氣儘之仕

形有之、何様異見を加候而も不致承引、夫故夫婦之縁難遂、養子違交

之筋罷成候者も可有之候、右躰之女ニハ親類中より折角異見可申聞事

候、乍其上氣儘之申分差通候ハ、縦血筋断絶候共、右女為致隠居、養

子之儀致相統候様可有之候

一 右之通正徳三年巳八月御格式被相定候事

聳養子罷成候者、無熟訳ニ而養子違交御免被仰付、本家立歸候節、養

父方ニ而致 御目見候而本家ニ而初而之 御目見不相濟者ハ組頭しら

へ之上 御目見願申出候様、正徳三年巳八月御格被定置候得共、本家

并養父方ニ而も一度初而之 御目見相濟候者、本家ニ立歸候以後、亦

初而之御目見願申出不及、此外之儀ハ先例相替儀無之旨、元文三年

午十月被仰渡候事

一 養子家督違交不致候而不叶訳有之候節ハ跡相統之者を見立、其跡ニ仕

居置、其者ハ隠居之願可申出候、以後依申分、本家ニ立歸候様ニも可

被仰付旨、正徳三年被仰渡置候得共、向後養子難遂者於有之ハ双方親

類熟談之上、致異見何れの筋ニも違交不致候而不叶訳有之候節、其身

隠居之願、不及違交、於御免ハ跡養子之儀ハ親類見合、追而可願出越

之書物を以、可申出旨、延享五年辰四月被相定候事

一 養子違交願申出候節、今一往致異見、難遂段承願、願出候様申渡、書

物相返御格候得共、最初願出候節、難訳承願候上ニ而願出寄候条、

向後一度願出候節之書物、取揚差出候様延享五年辰二月被相定候事

一 外城養子之事、芸能之儀、諸人致師匠候程之者、多クハ無之積候、別

而不至芸能ニ而も太抵御用相違候を具承願、尤筆算之儀相違候哉、手

跡之儀見届候程仕候而御格式相当之者ハ可相伺候、筆算又ハ何之芸能

も無之者ハ養子被仰付聞敷候間、向後右之通相心得、一漚入念しラハ

可申旨、享保三年戊五月被相定候

一 御当地士、外城より養子仕候儀ハ差立候家柄名跡を被立置候迄之儀、

其外血筋付而無視申立、又ハ紛も無之、及偶命候者ハ為差立家筋ニ而

無之、逼迫之者ハ御当地中より養子罷成者も無之、一門中之儀も当分

之飢寒ハ補候而も養子相応之者無之、且又及老年迄無妻之者ハ跡目

断絶可罷成候間、右躰之者ハ外城より養子御免ニ而跡目相統可被仰付

候、依之委曲左ニ相違候

一 其身之儀、別立候者より外城養子御免之願申出候共、被取揚聞敷候

但別立付而子細も有之者ハ依其訳、御取分可有之候

一 士不似合所行、其外付而御勘氣を蒙候歟、又ハ御詮儀之旨有之、牢舎・

遠流・逼塞等被仰付置、末何様共不相極内、相果候者ハ外城養子追而

願出候共、被取揚聞敷候

一 但御詮儀埒明、遠流・寺入・逼塞・遠慮等之御咎目被仰付、未被召直

迄之内相果候者之跡目願出候ハ、時々可被得内意候

一 外城養子罷成居候者、外城より致養子、跡目相統為仕度由申出候者、

願出候者之家筋等相札可被得内意候

一 士御赦免被仰付候者、其身代外城より養子御免之願申出候共、被取揚

聞敷候

一 数十年前禿候而名書組帳無之者之名跡、外城より養子願出候共、被取

揚聞敷候、組帳名相殘罷在候人之名跡ニ而候ハ、右格式を以、相札候

上、取次可被申出候

但組帳ニ名無之候而も歴々之筋目、又ハ忠節之筋目由緒等有之者ハ可被得内意候、右之外難心得儀有之候ハ、幾度も可被得差因候事

一 養子願出候者、芸能之儀、諸人御匠候程之者、多ハ無之積候、別而不至芸能ニ而も太底御用相違候程を具承届、尤筆算之儀相違候哉、手跡之儀見届程ニ仕候而御格式相当之者ハ可被申出候、乍然右通之者ニ而も人躰不宜、又ハ索性不宜者ハ差免間敷候、向後右通相心得、一涯入念相調可被申出候

一 一往外城養子御免之願申出候者、其節御免無之候処、多年を経候而初而申出躰ニ願出候ハ別而不宜事候間、右式之有無可被承届候、後家娘共よりとして願出候節、表方無案内之者ニ頼合候得ハ筋違之儀も可有之候間、此段可被入念候

一 表向ハ無高ニ而難統由申立者之内ニも内々ハ渡世相違者共も有之由候間、此段可被入念候事

一 家筋付而無契親類中相統可仕者、偶乍有之、外城より致養子候得ハ合力をも致由候付而類中も相応之者無之躰申出者も有之由候間、此段時々入念可被相改候事

一 外城養子被成御免候先例を以願申出候者有之候節、書面迄ニ而ハ同前相心得、其身之衷儀相替事も可有之候間、可被入念候事

一 座附士之者を表方士養子願申出候ハ、右外城養子之格を以、相調可被申出候事

右之通被相心得、入念相調候上、可被逐披露候、初而地頭職被仰付候人、委細之儀不存、所役人共申口まかせ証文出儀も可有之候間、是又可被入念候、少も疑敷儀於有之ハ時々可被得内意候、尤比趣帳面書留置候迄ニ而ハ後年吟味之不足も可有之候間、同役被仰付候節、時々比旨可被申伝候、若大形之儀於有之ハ組頭中可為越度候条、緩せ無之様可被相心得候、右に付而ハ諸地頭所申渡候書付被相渡置候旨、享保三年戊七月被仰渡候事

一 座附士を表方士之養子願出候節ハ外城養子之格を以相調可申出旨、先年被仰渡置候、右格式を以相調候得ハ申出様ニ付而難致事も有之候故、

此節左之通被相極候

一 座附士を表方士之養子願出候節ハ養子罷成候者之行跡、又は何方之座附、何比御赦免被仰付候訳、且又筆算等も相応有之、其外一往ニ而も下輩之仕業不仕儀共、外城養子之格ニ相糺、其趣を以近所并其座支配之肝煎証文奉行承届、無別条之旨添書証文養父方ニ相渡、其節外城養子願申出候、致格式組相付可申出候

一 養子成候者之実父方より私^{二男}何某事、表方士何左衛門養子内ニ申談候付而其御座御暇之願申上候処、何某御取次ニ而願之通御暇被下候条御法之通願可申出旨、支配頭より被仰渡候、依之御法之通、証文取揃何左衛門方ニ遺候間、願之通被仰付度旨、組相付可申出候

右之通享保九年辰二月被仰渡候事

一 鹿兒島士養子罷成候者無之付、外城養子願出者、先祖代差立候勤方仕候者ハ勿論、軽キ勤方ニ而も代々御奉行公勤來候者、又ハ勤方無之候得共、代々家相統いたし來候者、外城養子願出候ハ、可被取揚候

一 差而故も無之、別立候者、外城養子之願、四代目よりハ被取揚、三代迄ハ不被取揚候、右躰之者願申出、不被取揚者ハ外城養子ハ不被仰付候間、何分片付申出候様可被申渡候

一 近代別立候者ニ而も外城衆中、又ハ家中者之内、無契由緒有之者ハ其訳を以、養子願出候儀ハ格別候間、有來通可有之候

右之通元文二年巳三月被相定候事

一 外城より鹿兒島士養子罷成候者、向後之儀、外城ニ而持高致所持、直其高持越候者迄を御免可被仰付候、無高ニ而も無契血筋、又ハ為差立、誤有之願之依趣ハ被仰付儀も可有之旨、元文二年巳五月被相定候事

一 外城養子願申出候者、先外城養子之儀願出、蒙御免、其後人柄願申出御法候得共、向後兩度申出不及、内々養子罷成候者承立候上ニ而願之趣御当地士之内、養子罷成候者無御座候付、外城養子被仰付度候、於御免ハ何方外城、何某願、存候高何程持來候訳、一紙書記、願書可差出候、外城より高不持來者ハ養子御免不被成候、乍然無契由緒有之者ハ被仰付者も可有之旨、此内被仰渡置候、右躰之者願出候節も是又由緒之訳、委細同前可書出旨、元文二年巳十一月被相定候事

一 有馬休右衛門より小根占衆中大迫正藏高壘石持越候間、外城養子取組
度元文元年申閏七月願申出候処、高壘石ニ而ハ縦令迄之様有之、願難
取揚旨、同年八月被仰渡候事

一 小番家格之者ハ血筋ニ而大番之者、他家より養子參候願ハ取揚間敷
旨先年申渡置候得共、向後左之通被相定候事

一 小番筋之者養子、且又聳養子願之儀、親類之内無之、他家大番二男三
男家内罷居候者を願出候ハ右同断、養子願、養父を致介抱候養子ニ而
無之候得ハ難成者、親類之者相応之者有之候得共、致介抱、貯無之者
候ハ、他家之者ニ而も致介抱者を養子願出候儀、大番小番無差別候
其身代別立居候者、依願養子參候者、養父方ハ持高等も持越、自分跡目
ハ不被召立様願出候者、又ハ養子參、自分跡目は致養子旨申出候者、
右通之願ハ致次書可被差出候事

右之通元文四年未十月被相定候事

一 不別立候而相果候者之子、別立願出候節、高并屋敷ニ而も壱ヶ所致附
屬、別立御奉公為仕度由願出候者ハ願之通可被仰付候、無高無屋敷ニ
而別立迄を願出候者ハ御免被成間敷候

一 親類共より養子罷成候者無之候間、跡相禿可申由申出候者ハ願之通可
被仰付候

一 不別立罷居候者、詔有之、一世御奉公不被仰付者ハ子孫至而も御奉公
被仰付間敷候、尤別立願出候而も被仰付間敷候、乍然子孫之依器置ハ
御吟味之上別立并御奉公可被仰付候

一 右之通被 仰出候間、被得其意、入念相調、可遂披露候、少も疑敷
儀有之候ハ、時々可被得内意旨、享保三五七月被仰渡候事、成

一 家督之者二男三男類別立之願申出候節、部屋栖之嫡子被処違流儀者有
之、右者之子共有之候而も違流御赦免以後嫡子又は嫡孫家督不被仰付
儀も可有之候、然時は家内ニ罷在候二男三男之内、家相統可致事候得
共、右妹之者別立等之願申出候節ハ氣を付、遂吟味、其件委被申出候
様可被相心得旨、元文元年辰六月被仰渡候事

一 御側支配勤之内、相果候者、継目願出候節ハ伴表方勤、亦ハ勤方無之
者候ハ、表方ハ相付、願書可差出候、申渡之儀も表方に而有之筈候由

延享二年丑八月被相定候事

一 木原戸右衛門事、座附士橋口渡兵衛二男橋口仁左衛門養子願出候、座
附士養子願出候節ハ外城養子之格を以相調候様被仰渡置候、然ハ戸右
衛門事、其身代別立為申者候得ハ右之願難取揚、然共右之詔難決候旨
段々内意を以被申出候、座附士養子願出候儀、外城養子之格、被仰付
事候間、戸右衛門事、其身代別立候得ハ座附士之者養子ニハ御免不被
成筈候間、左様可被相心得候、此段可申渡候、享保九年辰十月被仰渡
候事

相

一 養子願之書物、組頭継書ニ而親類より御用人ハ差出申事候得共、何ぞ
詔直替、組頭吟味之趣有之候得ハ外ニ添書相認、御用人ハ差出二重之
首尾相掛候間願書次書之内ハ吟味之趣委相記、組頭より直ニ差出筋被
仰付候旨、延享五年辰二月被仰渡候事

一 直子無之旨、親類共見合を以願申上候様遺言致置、五月中相統之者難
相極、日数延之願申上候節、遺言書致置候段申上置、重而人柄見合跡
職申出候節、遺言書差出候筋、享保十三申七月被仰渡趣有之、其通致
来候処、享保二十卯五月大藏殿より中野駒右衛門御取次に而右通申七
月被仰渡候趣ハ無用ニ相成候筋被仰渡候付、享保五子正月奎殿より被
仰渡置候趣を以左之通相伺候

一 本文被仰渡置候趣を以申談候者、跡職相統之者無之、親類共見合を以
申上候様遺言致置、早速難相伺候ハ、日数延御免之願五月中申出候砌
遺言書差出候筋被仰渡候、左候而右遺言書ハ被返下候様有之度候、重
而人柄見合、遺言書を以跡職之儀奉願候付、無左候得ハ願書物等差出
候御格式相替候付、此通被仰付度候、享保二十卯六月

一 右之通御格式相当候間、向後其通可有之旨、大藏殿より被仰渡候事
御城下士直子無之者、外城養子之願、外城ニ而高致所持、直其高持出
候者迄を被成御免儀ニ候、右高永損地、又ハ持留高等ニ而無用之高持
越候而も詮無之候間、右妹之高持出候者ハ向後被成御免間敷候、宝曆
十三未八月被仰渡候事

一 御城下士直子無之、由緒之詔を以、外城衆中并座附士を養子願出候者

〔朱〕引札ニ而本行付諸座附士より外城養子願出候節、御城下士同前父方之続迄御免被仰付候」

向後父方從弟之続迄を養子御免可被仰付候、且亦所高直ニ持出候者ハ有来通可被成御免候、銀子等持越養父方借銀相弁、養子取組度由願出候而も被取揚間敷候、組中之諸士跡職願、直子無之養子承立候内、延之願申出候節、高屋敷所持之者、又ハ無高無屋敷之者、段々月延被極置三度迄ハ被召延、其上月延申出候而も何そ訳無之者ハ願不被取揚候、然共家之功、又ハ其身之依訳合ハ吟味次第被召延儀も候処、近年ハ及四度、延之願申出候者多々有之、月限被定置候詮無之候間、近代別立候歟、軽キ家筋之者ハ四度自月延之願ハ向後一切被取揚間敷候、乍然格別之訳有之者ハ御見合を以可被召延置候

右之通此節被相究候条、可承、御役ニ申渡、組中江も申渡候様組頭ニ可申渡候、宝曆十三未八月

御城下士末子之内より依願、座附士養子被仰付候者ハ格式相下候付、養子雖遂訳有之、致違変候者ハ向後御城下士婦參不被仰付候、本家之内ニ被入置、本何方座附士何某先養子と帳面等記置、以後座附士同前之御奉公仕候儀、又ハ座附士養子願出候儀ハ勝手次第可有之候

右之通被仰付候条、此旨組中并支配有之面ニ可申渡候、明和二酉十月被仰渡候事

渡辺左左衛門儀、本渡辺名子之權右衛門叔父ニ而權右衛門家内ニ罷居候処、權右衛門事、依科名跡被召禿、左左衛門儀ハ無御構段、被仰渡置候間、此間別立之願申出候得共、不被仰付段、先達而申渡置候、右躰之者、向後別立不被仰付候条、右躰之願申出候節ハ右之心得を以被致吟味候様可申渡候

〔朱〕本渡辺名字之權右衛門家内叔父

渡辺左左衛門

右權右衛門事、依科名跡被召禿候右左左衛門家内ニ而親族御咎目無之者ニ候得共、右躰之者ハ別立并養子成御奉公方向後不被仰付候、以後士名跡被召禿候者之内ニ罷居候者ハ親族御咎目有無不依、与帳高帳

可被相除候、右次第二候得ハ親類家内ニ入置、家来同前之者ニハ名字名乗候儀ハ無御構旨、被仰渡候条、諸事如斯可被申渡候、延享二丑六月被仰渡候事

家督継目養子別立、又ハ初而高持成、高上り等之願申出候者有之節ハ其当人何その役儀相勤候儀有之、願も無之役儀被差免候儀無之哉之旨組頭被承届、若右躰之者有之候ハ、以前何役相勤候処、御免之願も不申上候得共、被差免候段、別紙書付可被差出候、右躰之儀無之者も其段書付可差出候、此儀吃と申渡儀ニ而無之、右ニ付而ハ追而何分ニも被仰渡儀も可有之候、先当分組頭右之心得被致候様有之可然と申談内意申達候

嫡子を養子ニ遣候事、無契申立願出候付吟味之上、被仰付事候処、内ニ之訳合ニ而致違変、本之通嫡子ニ相立男上り致居候本家嫡子を二男ニ男下り願出候儀、甚以自由ケ間敷事候条、向後右躰違変後嫡子相立又ハ嫡子を養子ニ遣候儀御免被成間敷候、本家相統之儀格別候得共、是其節吟味次第可被仰付旨、安永六酉六月仰被渡候事

組中之面ニ継目養子、又ハ違変寄之願申出候節、妻子召列候人ハ其訳申出候是迄之振合候得共、妻之儀ハ自夫ニ相付事候間、以来ハ妻之文字相除、子共召列候儀迄を願出候様、安永七年戊四月被仰渡候事

家督之者相果、直子等無之、依願及三度跡職拜延置、内ニ養子等申談置候得共、難決儀有之、相究願難申出、御法之月数管合候付、及四度延之願申出候者近年多定之様ニ相見得、甚以心得違候、跡職之儀ハ格別成儀ニ而御法も有之事候処、畢竟親類共大形ニ相考候処より右次第ニも成立、甚不可然事候条、以来ハ右躰願申出候共、御取揚有之間敷候、乍然至而無契趣ニ候ハ其節、御吟味之上、可被仰付旨、安永八年亥四月被仰渡候事

一 嫡子相果候歟、又ハ養子ニ遣候節、二男を嫡子ニ願申出、右準シ三男以下男上り相願、二男以下右同断之節も依願男上り御免被仰付儀候得共向後左之通被仰付候

一 嫡子相果、亦ハ養子ニ遣候節、嫡子成願之儀ハ只今之通ニ而三男以下男上り不被仰付候、乍然右之内御支族亦ハ為差立家筋ニ而二男三男ニ

男上り有之候得ハ家格進上物等宜相成候家筋之面ハ是迄之通男上り願申出、家格進上物等も不相掛家筋之嫡子成之外、男上り願不及申出生之なりにて被差置候

一 家格進上物等ニ不相掛嫡子養子違変ニ而立版候者ハ本家之長子被入置以後別立をも願出候節ハ諸事其家之二男格式ニ被付候、尤男上り之儀、前条之通被仰付候付、二男以下養子違変ニ而立歸候者ハ自分本之生之次第ニ入來寄候

一 嫡子以下進上物等格式宜者、養子ニ遣候跡、致男上り居、違変ニ而罷版候ハ、本之姿ニハ不被仰付、其家之末子格式ニ而本家之内ニ被入置、別立願出候ハ、諸事其家之末子同様之格式被仰付候、乍然二男三男ニ男上り無之者ハ違変以後二男又ハ三男之場ニ可被仰付候

一 右之通御格式被相替候旨、安永八年亥四月被仰渡候事
御免ハ往々右娘ニ取合度旨申願出候儀も有之、又ハ頭より繼目養子之願申出、娘幼少故、先様取合度趣願申出候も有之、不相并候間、向後右跡之者ハ聳之字相除、幼少之娘ニ往々取合度趣を以繼目養子と相願、且亦存生内幼少之娘有之、養子願申出候節も右之振合可被相心得旨、御小姓与番頭ニ天明元年丑四月被仰渡候事

一 山田次郎右衛門事、先年龜山次郎左衛門聳養子相成、龜山家相統内、直子無之、龜山甚之丞致養子置候処、其後次郎右衛門実家甥山田八太夫相果、跡相統仕候者無之、依願甚之丞儀ハ養家ニ残置、実家ニ為致婦參者候故、次郎右衛門儀ハ龜山系図世代面相除、甚之丞儀ハ次郎左衛門繼目養子之筋被仰付候、尤以來右跡無扱認合ニ而実家婦參之者も養子違変之者同前、養家系図世代面相除候様被仰付候旨、天明三年卯五月被仰渡候事

一 男上之儀被仰渡置候趣有之候処、二男を養子等ニ遣置、三男 御目見願等申出候節、考違二男之筋申出候類之儀有之候、右跡之儀ハ頭人より氣を付、組中不及迷惑様可取調被 仰出候旨、天明五年巳五月被仰渡候事

一 直子無之人、跡職不被召立筋、親類共願出候儀、以來何某何男家等之

一 誤迄も相糺、其本家より可願出候、尤本家無之者ハ是迄之通、親類共より可願出候、天明五年己七月被仰渡候事

一 嫡子を他家之養子ニ遣候儀ハ実家之詛を以願申出候而も向後御免被仰付間敷被 仰出候旨、天明五年己八月被仰渡候事

一 諸士二男三男、家付二三代も別立罷在候者、嫡家又ハ二男家跡職無之節自分之家を禿致相統候儀有之候、此儀家相統之為ニハ尤之儀候得共、代々別立罷在候家を禿候儀ハ如何之事候条、向後右跡之者被仰付間敷候、其身代別立候者、又ハ子孫之内、二男三男有之者、又ハ一類之内より致相統有之候ハ、其者を跡職願可申候、若右類之者も無之家及断絶事候ハ、代々別立罷在候者ニ而も跡相統不致候而不叶詛も有之候ハ、其身之跡を仕居可申候間、相統御免被下度旨願可申出候、尤外城養子ニ而も願可申と存候者ハ是又願可申出候、依其趣御沙汰次第可被仰付候

追

一 別立被仰付置候人、他家養子願之節、其身家跡ハ不被召立助申出候者、是迄御免被仰付候得共、以來も為差立詛合無之家筋迎も本家ハ格別、他家を統自分家跡を禿候儀不可然候、依之向後御免被仰付間敷候、尤別立居候而も差違等ニ而御奉公難相勤跡罷成本家ニ引取、其家跡不被召立筋願出候者ハ御免可被仰付候、其者本家家内罷成候上ニ而他家養子願出候ハ、其節ハ御免可被仰付旨、天明五年己十二月被仰渡候事

一 家督之者、他家養子ニ差越候儀、且嫡子之儀さへ部屋栖ニ而候得共、本家等之詛合無之外ハ御免不被仰付候付、其身代別立家督罷在者、嫡子又ハ二男等家跡ニ残置、他家之養子ニ罷成候儀不相成、尤其者之嫡子並も同前之儀候間、以來心得違之儀共無之様、天明六年午十一月被仰渡候事

一 養子ニ参り候者致家督候後、養子違変之儀、是迄願出來候得共、向後御免被仰付間敷候、且又実家相統之ため如元立歸候儀も同断之事ニ候、於養家部屋栖ニ而罷在候ハ、依詛合ハ養子違変之儀可被成御免候、是並も実家為相統立歸候儀ハ自由ケ間敷儀故、被成御免間敷旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 芸道を以被 召出候者之子孫、其芸道を以致相統事候間、家督繼目等

願出候節、其頭々隨分可氣付旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 家督繼目等願申出候節、芸道を以被 召出候者之家之儀ハ都而被 召出候訳願書ニ可相認旨、天明七年未八月被 仰渡候事

一 御小姓組之二男以下別立候者、是迄御小姓組ニ被入來候得共、向後高五拾石以下分地之者ハ小十人ニ可被召入候、其外ハ有來通可有之被仰出候旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 小十人より養子遣候儀、小番・新番・御小姓組不苦候、其身代卑賤より被 召出候躰之者、予共養子ニ遣候儀ハ是迄卑賤之者より御小姓組ニ被 召出候通可相心得候、其外是迄之通、尤郷士より小十人ニ養子罷成候儀、是迄御小姓組家之養子ニ罷成候通、父方從弟之統、又ハ所高五石以上持出候者ハ御吟味次第御免可被仰付旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 先年小十人等被相建候御趣意ハ諸士之無祿之面々多候処、猶又分地之沙汰も無之、別立之願過分有之、其通被 仰付來候処、其内ニハ無祿之事故、格式相当之儀難取統、本家ニ引取候躰、或致零落、終ニハ下賤之産業をもいたし候而当日を凌候様成立候向多、第一右躰之所より士風高下之差別薄成行候事故、御小姓組以上ハ屹と士風相立候様との厚 思召を以、新規ニ小十人等被召建、御小姓組以下、高五拾石以上分地無之、別立候者ハ右与^五被入置候旨被究置候処、其後御小姓組二男以下、小十人相願候者無之、右之格式一等相劣候方ニ而新規之儀故、人々迷惑之儀ニ而猶又御吟味之筋被為 在、此節小十人等御引取被仰付候、然ハ以前之通、分地無之、別立候而ハ格式相当之儀も難取統、右次第事候間、以來御小姓組以下別立之者ハ本家持高之内現高五石以上致附屬候者ハ御小姓組ニ別立被仰付、分地無之、別立願出候者ハ勿論往々買地等之約束ニ而申出候共、一切御免被仰付間敷候

石之通被究置候旨、被 仰出候段、寛政二戌九月被 仰渡候事

一 別立被仰付置候者、差迫等ニ而本家引取候儀願出候向も有之候得共、容易御取揚難被成事候、然処右之内ニハ 仰出無之、以前別立居、往々養子成等之致内約居候者も有之候様相聞得候、其分ハ右之趣を以、此涯可願出候、尤当年中を相過願書差出候面々御取揚有之間敷候、

格別之御取分を以、右通被仰付事候間、取違有之間敷候、左候而以來本家持高等も少も扶助不相調、無契訳ニ而一家立難成者迄を時々吟味次第御免可被仰付旨、寛政四年于六月被 仰渡候事

一 嫡子初而之 御目見相濟、又ハ手札等申請候以後相果、或ハ本家致相統等候節、二男初而之 御目見不相濟者ハ嫡子成之願不申出も有之候得共、向後右躰之者ハ二男初而之 御目見不相濟候而も嫡子成之願可申出候旨、寛政四年于七月被仰渡候事

一 諸向跡職不相定内、家跡并名跡と有之候得共、以來ハ家跡と可相唱旨享和二年酉三月被 仰渡候事

一 諸芸練熟之上被召出候家之儀、其芸を請次、至于孫其道を御用立候様可心掛、若取違芸道取止候者ハ本之俗生ニ可被仰付候旨、先年被仰渡置候処、心得違其芸道打捨、致外勤等居候者も有之哉ニ相聞得、別而如何之至候条、以來屹と芸道相統可致候、乍此上不守之者も有之候ハ、屹と可及沙汰候、併有躰家筋之者差迫、一旦之勤方等ニ而も不致候而ハ却而其家業之芸道難取統躰之者も候ハ、其訳合申出候ハ、依事吟味も可有之旨、文政二年卯正月被 仰渡候事

一 芸道并功等之御取訳を以、代々御小姓組被召出候家筋之者、二男以下別立之儀、向後願出候共、三代迄ハ被成御免間敷、乍然四代ニもおよひ候ハ全躰之御小姓組と同様、分地之依程合ハ別立被仰付候、且又學問武芸御用立候御取訳を以、代々御小姓組被召出候家筋之者、二男以下別立候儀ハ數代連統之御小姓組家筋同様之御取扱可被仰付、被仰出候旨、文政二年卯十月被 仰渡候事

一 郷養子家筋ハ二男以下別立之儀、及四代ニも候ハ、代々御小姓組被召出候者同様、別立可被仰付被仰出候旨、文政九年戌八月被仰渡候事

〔六十二〕 違 貴聞縁組之事

一 持高式百石以上縁組之儀ハ願申出候上可致之、月次御孔罷出候御役人

以上ハ高之不依多少可願出之、無役ニ而も寄合并以上ハ是又可為同前
尤一方式百石以上致所持候敷、又ハ月次ニ罷出候御役人以上ニ而候ハ
、双方より可願出之、勿論其家内子并孫ニ而も縁組仕候ハ、双方親類
共より右同前可申出之旨、宝永七年寅閏八月被 仰出候事

但幼少より縁組申合置候儀仕間敷由、正徳元年卯十月被仰出候事
依御免縁組仕居候者、無契訳有之、縁組難遂者ハ双方親類共申談、同
意之上、双方親類連名ニ而双方より願申出管ニ正徳三年巳七月被相定
候事

右縁組之儀、傍輩之子を内約相極置、願之通屹と被仰付、縁を結罷
在事候処、御当地之儀、諸国之格式相替、女房離別願申出候者多有
之候、屹と奉願為被仰付事候条、軽々敷其恐を不存、又ハ互ニ不儀
之至ニ相聞得、旁以風俗不宜候、依之先頃為被 仰出旨も有之候間
駕奉得其意、離別之願申出候者可有之時ハ右件を以相改候上、可邊
披露候、右之旨趣不相違候哉、此間多々間違之儀有之候付、此節又
々申渡事候旨、正徳二巳七月被 仰渡候事

一 月次御礼罷出候御役人縁組仕候節ハ持高有無ニ無構申出管之処、願を
も不申出、内ニ而縁組仕候人も有之由、此段ハ心得違ニ而候間、向
後月次御礼罷出候御役人ハ不及申、其家内之者迄も縁組仕候節ハ支配
頭ニ相附、願可申出候、尤縁組願申出候儀付而ハ先年被 仰出趣有之
寅閏八月申渡置候得共、其内末ニ而取違之儀も有之候故、此節別紙
之通、又々申渡事候間、可得其意候、右外之儀ハ先年申渡置候通、別
ニ相替儀無之候間、左様相心得、自今以後取違不仕様組中ニ可被申渡
置旨、正徳五年末十月被 仰渡候事

一 初而之 御目見不致者、縁組之願申出候而も取揚間敷旨、正徳五年末
十月被仰渡候事

一 御一門・一所持并一所持格・組頭・番頭・組頭列以上、御家老・直触
格迄ハ無役ニ而も月番御家老ニ双方より願可申願候

一 但聲方父無之者ハ近キ親類より願可申候、舅方も同断

一 右格之人ニ而も御役相勤候者ハ其御役之頭ニ相附願可申出候

一 聲成候者、無役ニ而も親右之御役相勤候ハ、親御役之頭ニ相附、可申

出候

一 縁組之儀、一方ハ申出ニ不及者ニ而も一方申出格之者候ハ、双方より
可申出候、支配違ニ而も其頭ニ願書可差出候、御家老方ニ而双方之
願書取揃可申上候

一 願申上縁組仕候者、致離別候ハ、其段頭ニ可申出候
右之通向後相心得候様ニと被 仰出候事

一 親御側方ニ相勤、伴表方ニ勤候者、縁組之願申出候節、前以親支配頭
御側方ニ親より其届可申出候、尤其後表方ニ願書親より可差出候

一 親表方ニ相勤、伴御側方ニ相勤候者、伴縁組之儀願申出候節、右願書
物親より可差出候

一 不依御側表、右準願可申出候

一 娘縁組之儀申出候節ハ伴縁組申出候次第ニ相替、早晚親支配頭ニ書
物可差出候

一 右ハ縁組願、其外何角付願申出候次第、先年段々被仰渡置候得共、
末ニ而ハ取違有之、向後右之通相心得、間違無之様可被致沙汰旨
享保二酉八月被仰渡候事

一 月次之御礼罷出御役人ハ其頭ニ常ニ致願事候格式可致候、無役ニ而も
寄合并以上ハ高之不致多少、其外ハ式百石以上其頭ニ願出旨、正
徳五年末十月被仰渡候事

一 縁組願之儀付而ハ非而御格式被定置候、高式百石以上之人之家内罷居
候而も縁組之願申上候節ハ違 貴間管候付、右御格式向後可被相心得
旨正徳六申二月被仰渡候事

一 御隠居様御方相勤候人、縁組願申出候節、一方ハ願不申出格式之人ハ
願申出不及、御免被成管候、尤双方より申出格式之人ハ勿論申出管、
先頃被相極候条、此旨被承置、此以後右躰之願申出候節ハ右格式を以
時々相調、間違無之様可致旨、享保九辰正月被仰渡候事

一 表方之儀ハ此内之通可被相心得旨、被仰渡候事

一 御一門より寄合并、御役人ハ納殿役人以上縁組有来通、右外之御役人
并無役式百石以上、向後縁組願申出不及旨、延享五年辰二月被相定候
事

一 縁組離別願申出候節、今一往致意見難遂段承届、願出候様申渡、書物相返御格候得共、最初願出候節、難遂訳承届候上ニ而願出管候条、向後ハ一度願出候節之書物取揚、差出候様、延享五辰二月被仰渡候事

一 上原雪阿弥^江田原喜藤次妹御免之上致縁組居候処、雪阿弥相果、子共も無之候付、喜藤次方^江妹引取申度旨申出趣有之候、引取候儀勝手次第致候様可被申渡候

一 縁組離別之儀、最初縁組願相立候者ニ而も以後願相立不及格ニ罷成候ハ、願立ニ不及旨、先年申渡置候、前条喜藤次妹事も離別同前之儀候条、向後右躰之儀、親類共申談、願申出者有之候ハ、組頭より願之通可被申渡旨、延享元年子九月被仰渡候事

一 聳養子并違変

(朱)
一本文ケ条願申出候節、御側支配之者ニ而も小役人躰之者ハ、御内意申出与所^江申出与頭^江書ヲ以表方^江申出管候

一 繼目聳養子并違変

一 別立

一 嫡子成

一 縁組并離別

一 外城養子

一 右願御側支配之者より申出候節、書物差出候様、又ハ御内意申上候儀ハ此内之通ニ而御側方承候御家老^江取次、御側御用人より遂披露承届候上、直右取次より表方月番御家老^江遂披露、書物之儀ハ差図次第、若御年寄^江可相渡候

一 右之通御方^江相附願申出候者も誰人ニよらす願之通被仰付候節ハ於數舞台表、御用人を以申渡管候

一 御側支配勤之内相果候者、繼目願出候節、伴勤方勤、又ハ勤方無之者候ハ、表方^江相附、願書可差出候、申渡之儀も表方ニ而有之管候

一 右ハ支配分ニ而只今迄首尾有之候得共、此節より右之通被相改候条組頭并御側表御用人^江可申渡候

一 縁組願之儀、父無之人、親類より願申出来候得共、以来ハ家督之人ハ当人より可願出候、二男末子又ハ家内ニ罷在候人ハ家督より可願出候江戸詰之者、親類より願出候儀、有来通可相心得被 仰出候旨、天明五年巳四月被仰渡候事

一 諸人縁組之儀ハ父兄ハ勿論、一類中等熟談之上、婚儀相整事之故、可成長離縁不致様ニと先年分而被仰出趣有之候処、兎角不熟之趣毎々相聞得、如何至極ニ候、無契訳合ニ而父母兄弟親類等打寄申談候上ハ格別ニ候得共、間ニハ縁辺之儀と輕々數心得違、及離別候向も有之段、別而不可然事ニ候、以来縦令其身より何様申候共、深敷訳合無之候ハ、左様無之筋いづれもより異見を加へ可為致熟縁旨、天明七年未八月被仰渡候事

(朱)
六十三 諸士子共半元服前髮取之事

一 諸士子共半元服之儀、式拾歳定置、其内ニ而も年生より勢も大キ有之尋常ニ生立候者共ハ月番御家老・大御目附見分之上、致免許候様ニと被仰付置候得共、此以後ハ於組所組頭致見分、可相濟候、左候而時々其首尾大御目附^江申出候様ニと宝永五年子正月被仰付候事

一 前髮取之儀も廿三歳極置、勢大キ有之候者共ハ前条同断被仰付置候得共、向後ハ半元服同前、組頭見分之上、令免許、其首尾大御目附^江申出候様ニと宝永五年子正月より被仰付候事

一 角入前髮取、以前より被仰付儀共有之候得共、比日ニも未勢大キ無之者角入前髮取候者多相見得候、御見合を以被仰付儀ハ格別、大身小身共向後十七之五月角入、十八之二月前髮取可申候、此御定之通、少も不相替様可致由、正徳六年申四月被 仰出候事

一 組中之面々角入前髮取之儀、此内ハ年生無構、見分之上差免許候得共此節より被相改、十七歳之五月角入、十八歳之二月前髮取被差免許候条、角入前髮取願出候者共致吟味可被申出候、尤見分其外之儀ハ此内

之通、諸事可被相心得旨、享保十二末十月被仰渡候事

一角入前髮取之儀付而八年生被定置候通ニ候、然共若年之御より行跡能徒夜行等も不致、行跡宜者御定年生一年早ク候而も角入前髮取之儀、吟味之上、相調可被申出候、右次第ニ而組頭より一度も呵杯ニ逢不申勢比相応相見得、行跡も宜段被承届候者ハ御定之年生二年ニ而も早ク角入之儀、相調可被申出候、右通ニ而一年又ハ二年も早ク角入御免之者、弥以律儀罷成、行跡宜者ハ吟味之上、一年又ハ二年ニ而も早ク前髮取之儀も吟味之上、相調可被申出候、左候ハ、御家老中見分之上、何分も可申渡候、当分角入罷居候者も右之趣を以相しらへ、行跡宜者ハ御定之年月不罷成候而も前髮取之儀可被申出旨、元文元辰五月被相定候事

一角入前髮取之儀、向後初而之 御目見相濟候以後可願出旨、今日触書を以申渡候、右ニ付而ハ角入前髮取願書物之内ニ初而之 御目見相濟候訳、書加候様可被申渡旨、延享四年卯七月被仰渡候事

諸士子共角入前髮取願、年生被極置候得共、向後之儀ハ年生之不及極初而之 御目見相濟、勢比相応相見得候者ハ組頭可被申出候、見分之上何分ニも可申渡候

諸所江勤方付、引越居候者、田舎御暇被下置候者之子共、角入前髮取之願初而之 御目見相濟、勢比相応相見得候者ハ御当地不及差越、其所より組頭ニ相附、願可申出候、不及見分、何分も可申渡候

右之通延享五年辰四月被仰渡候事

一角入前髮取之儀、不及年生之極、勢長ケ相応之者ハ角入前髮取被差免事候処、角入ハ拾三四歳、前髮取ハ拾五歳相成候節、差免候筋被究置候事

一 小番之儀、若年寄支配之事候間、角入前髮取願申出候節八月番若年寄宅ニ対客ニ罷越、其後右之願可差出候、尤対客前右舍之段内意可申込置候

(朱)

「本文ニ付而ハ支配之事候故、角入前髮取候様若年寄手前より申渡、月番御家老ニハ右之段届可申出置旨、被仰付候事」

右之通以来被仰付候旨、天明七年末二月被仰渡候事

一 新番之面々角入前髮取之願申出候節ハ前以右舍之段、内意申込置、月番大番頭宅ニ罷越、面会相濟、其後右願可差出候、尤支配之事候間、角入前髮取候様大番頭より相達、月番御家老ニも右之段ハ届可申出置候

一 御小姓与之面々右同断之願申出候節、御小姓与番頭宅ニ而前条同断之始末ニ可致候、尤支配之事候間、角入前髮取候様御小姓組番頭より相達、月番御家老ニも右之段ハ届可申出置候

右之通被 仰付候旨天明七年末二月被 仰渡候事

(朱) 「六十四」 諸人訴訟之事

一 諸人より訴訟申出候節八月番之御家老出勤前、於宅承之候様ニと宝永三戌三月被 仰出候事

右之通被仰渡置候得共、御家老申之分ハ向後月番御用人ニ相附、可申出旨、享保十五戌十月被 仰渡置候事